

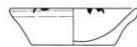
茨城県石岡市

山崎塩海道遺跡

茨城県石岡市

山崎塩海道遺跡

- 市道 B6706 号線（美野里・八郷線）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 -



2014

石岡市・石岡市教育委員会・株式会社東京航業研究所

2014

石 岡 市
石 岡 市 教 育 委 員 会
株 式 会 社 東 京 航 業 研 究 所

茨城県石岡市

山崎塩海道遺跡

－市道 B6706 号線（美野里・八郷線）建設に伴う発掘調査－

2014

石 岡 市
石 岡 市 教 育 委 員 会
株 式 会 社 東 京 航 業 研 究 所

序

石岡市は平成17年に石岡市と八郷町が合併し、新生石岡市として人口約8万人の都市となりました。石岡地区は国指定特別史跡の常陸国分寺・尼寺跡、国指定史跡の常陸国府跡・舟塚山古墳などが存在し、八郷地区は全国的にも最大規模の瓦窯跡と判明した県指定史跡の瓦塚、太田資正の居城である片野城などが存在し、ともに文化財が豊富な地区と言えるでしょう。

これらの文化財は一度形状が変更されてしまうと二度とは元に戻せないものです。したがって、可能な限り現状を維持しながら将来に引き継ぐ必要がある一方でその重要性を広く市民に周知するべく活用を図る必要があります。

本書は平成25年度の調査を通して新たに確認された戦国時代の居館に関する発掘調査報告書です。中世の山城が多く存在する八郷地区の歴史を考えるうえでとても貴重な成果があがったものと考えられます。

本書が学術的な研究資料としてはもとより、石岡市の歴史に関する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として、広く活用いただければ幸いです。

平成26年3月

石岡市教育委員会
教育長 櫻井 信

例　　言

1. 本報告書は茨城県石岡市山崎に所在する山崎塙海道遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は市道 B6706 号線（美野里・八郷線）建設に伴い、石岡市の委託を受けて、株式会社東京航業研究所が実施した。
3. 発掘調査については、石岡市教育委員会の指導を受けて実施した。
4. 本書の編集は株式会社東京航業研究所の渡邊久生・林邦雄が担当して、執筆は渡邊・林・小杉山・谷伸が分担した。各項の文責は各文末に記載している。
5. 調査内容および調査組織は下記の通りである。

所在地 石岡市山崎 2925番地2ほか

調査面積 737 m²

調査期間 発掘調査 平成25年7月19日～平成25年9月24日

整理作業 平成25年9月25日～平成26年3月7日

事務局・調査指導

石岡市教育委員会教育長	櫻井 信
教育部長	鈴木 信充
次長	大関 敏文
生涯学習課長	櫻井 俊充
生涯学習課長補佐	箕輪 健一
生涯学習課係長	安藤 敏孝
生涯学習課係長	小杉山 大輔
生涯学習課主幹	谷伸 俊雄

調査担当 渡邊久生

発掘調査および整理作業参加者	石割裕二郎	市村 浩男	丑尾田幸男	荻鶴 新一	柿崎 昇	
柏 昌実	神山 道子	菊池久美子	城戸かなこ	木下 順二	五味 和夫	酒井 洋
坂入辰一郎	佐藤 武志	佐藤としえ	鈴木 晃	仙波由美子	田上 達恵	千葉 静江
塙田 弘	殿井貴代子	富永 義昭	長江 陽子	永瀬 敏子	永田 正博	西郡 明
西村久由規	野村 果央	藤田 貞子	本田 仁子	牧田 保身	松下 哲男	宮下 広美
吉田 豊	渡辺喜代三					

6. 発掘調査によって得られた遺物や記録類は、全て石岡市教育委員会で保管・管理している。

7. 発掘調査から報告書の刊行まで、下記の方々・諸機関より御教示・御協力を賜った。記して深く感謝の意を表する次第である。（敬称略）

株都重機・加藤空撮

凡　例

1. 本遺跡において使用した略号は次の通りである。
山崎塩海道遺跡…YSK-2013 溝…SD 土坑…SK 屋外炉…FP 道路状遺構…SF ピット…SP
2. 遺構実測図中のレベルは海拔高、方位は座標北を示す。
3. 本文中の色調は『新版標準土色帖』（農林水産庁農林水産技術会議監修 財團法人日本色彩研究所色票監修 2007年度版）を用いた。
4. 文中に掲載した実測図の縮尺は、原則として次の通りである。
全体図 1：150 溝 1：60、1：80、1：100 土坑 1：40 屋外炉 1：40 道路状遺構 1：40
ピット 1：40 土器・土器拓影・石器 1：3、1：5
5. 遺物番号は本文、挿図、写真図版と一致する。
6. 遺物観察表における法量の（ ）内数値は推定値、<> 内数値は残存値を示す。
7. 遺構内出土遺物の出土状態は、下記の記号を用いた。

●土器

8. 挿図中のスクリーントーンは下記に示す通りである。

遺構図		…焼土範囲
遺物図		…須恵器断面
		…黒釉薬範囲
		…灰釉薬範囲
		…内黒

目 次

序	第3章 調査の方法と成果	9
例言 凡例	3-1 概要	9
目次	3-2 繩文時代	9
第1章 調査に至る経緯と調査経過	(1) 遺構	9
1-1 調査に至る経緯	(2) 遺構外から出土した遺物	10
1-2 調査の経過	3-3 奈良・平安時代	10
1-3 調査の方法	3-4 中世以降	12
1-4 基本土層	(1) 遺構	12
1-5 検出された遺構の概要	(2) 遺構外から出土した遺物	21
1-6 工事立会い	3-5 時代不明のピット	23
第2章 遺跡の位置と環境	第4章 総括	33
2-1 地理的環境	写真図版	
2-2 歴史的環境	抄録	

挿図目次

第1図 基本土層図	2	第14図 1・3~5号土坑	16
第2図 試掘調査・工事立会い地点全体図	3	第15図 1号土坑出土遺物	17
第3図 SD01・SD02	4	第16図 6・7・9~12号土坑	18
第4図 工事立会い地点全景（西から）	4	第17図 6号土坑出土遺物	19
第5図 山崎塩海道遺跡の位置	5	第18図 1号道路状遺構	20
第6図 遺跡全体図	7~8	第19図 1号屋外炉	20
第7図 2・8号土坑	9	第20図 中世以降遺構外出土遺物（1）	21
第8図 繩文時代遺構外出土遺物	10	第21図 中世以降遺構外出土遺物（2）	22
第9図 奈良・平安時代遺構外出土遺物	11	第22図 ピット（1）	24
第10図 1号溝	13	第23図 ピット（2）	25
第11図 1号溝出土遺物	13	第24図 ピット（3）	26
第12図 2号溝	14	第25図 ピット（4）	27
第13図 3号溝	15		

表目次

第1表 周辺遺跡一覧表	6	第6表 6号土坑出土遺物観察表	19
第2表 繩文時代遺構外出土遺物観察表	10	第7表 中世以降遺構外出土遺物観察表	22
第3表 奈良・平安時代遺構外出土遺物観察表	11	第8表 ピット計測表	28
第4表 1号溝出土遺物観察表	14	第9表 出土遺物計測表	30
第5表 1号土坑出土遺物観察表	17		

図版目次

- 図版 1 調査区全景（東から） 1・2号溝全景垂直写真
- 図版 2 調査区完堀及びピット分布状況（西から） 1号溝完堀状況（東から） 2号溝完堀状況（南から）
1号溝土層断面A～A'（南から） 1号溝土層断面B～B'（南から） 1号溝土層断面C～C'（南から）
1号溝土層断面D～D'（南から） 2号溝土層断面A～A'（南から）
- 図版 3 2号溝土層断面B～B'（南から） 2号溝土層断面C～C'（南から） 2号溝土層断面D～D'（南から）
2号溝土層断面E～E'（南から） 2号溝土層断面F～F'（南から） 2号溝土層断面G～G'（北から）
3号溝完堀状況（北から） 3号溝土層断面A～A'（南から）
- 図版 4 3号溝土層断面B～B'（北から） 1号道路状遺構検出状況（東から） 1号屋外炉完堀状況（東から）
1号土坑完堀状況（東から） 2号土坑完堀状況（東から） 3号土坑完堀状況（東から）
4号土坑完堀状況（南から） 5号土坑完堀状況（東から）
- 図版 5 6号土坑完堀状況（西から） 7号土坑土層断面及び完堀状況（南から） 8号土坑完堀状況（東から）
9号土坑完堀状況（東から） 10号土坑完堀状況（南から） 11号土坑（北から） 12号土坑（東から）
49号ピット完堀状況（東から）
- 図版 6 70号ピット完堀状況（東から） 73号ピット完堀状況（南から） 85号ピット完堀状況（南から）
88号ピット完堀状況（南から） 89号ピット完堀状況（北から） 1号テストピット基本土層①（東から）
2号テストピット基本土層②（東から） 発掘作業風景
- 図版 7 繩文時代遺構外出土遺物 奈良・平安時代遺構外出土遺物 1号溝出土遺物 1号土坑出土遺物
6号土坑出土遺物
- 図版 8 中世以降遺構外出土遺物

第1章 調査に至る経緯と調査経過

1-1 調査に至る経緯

平成20年6月13日、石岡市長より市道B 6706線（美野里・八郷線）道路整備事業に伴い埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いに関する照会が石岡市教育委員会教育長宛に提出された。これを受け石岡市教育委員会では担当部署と協議を行いながら順次路線上の試掘調査を行っている。

当地に関しては平成24年10月17日から11月9日にかけて試掘調査が行われており、この時に中世の堀が確認された（第2～4図）。現状では周知の遺跡の範囲外であったため平成24年11月10付けで遺跡発見の通知を行い、平成25年4月8日に茨城県教育委員会教育長より新たに発見された遺跡として認定されている。

その後、平成25年4月15日付で石岡市長より「埋蔵文化財発掘の通知」が提出され、茨城県教育委員会教育長より工事の着手前に本格的な発掘調査が必要である旨が通知された。

この通知を受け石岡市教育委員会では株式会社東京航業研究所に委託し発掘調査を実施することとなった。

（小杉山・谷伸）

1-2 調査の経過

発掘調査は、平成25年7月19日から平成25年9月24日の約2ヶ月にわたり実施した。

残土置き場が調査地点の西側に位置するため、東側より7月19日から7月30日まで、バックフォウ及びクローラーダンプトラックを使用して、表土掘削及び搬出作業を行なった。表土の深さは約30～50cmで遺構確認面であるソフトローム上面に達した。場内には多数の切り株が存在して、その下位に遺構が存在している可能性が高かったため、8月7日まで手作業で切り株の除去作業及び遺構確認作業を行ない、8月8日から遺構の掘削を実施した。検出された遺構は溝3条、土坑12基、道路状遺構1条、屋外炉1基、ピット126基である。お盆休みを挟み、9月2日に遺構の検出されていない位置を利用して基本土層確認用のテストピットの掘削、9月6日にラジコンによる航空写真撮影、測量などを行ない、9月9日まで写真撮影などを行った。24日に埋め戻しが完了し、発掘調査は終了した。

整理作業は平成25年9月26日から遺物の洗浄、注記を行ない、10月1日より接合作業を行なった。また、平行して9月下旬よりS T P（デジタル図化解析機）による図化作業を行なっている。10月下旬より遺物の実測作業と平行して遺構図のトレース作業を進めた。12月中旬から遺物実測図のトレース作業、原稿執筆作業、図版作成、写真撮影などを行ない、平成26年2月から報告書編集作業を行なった。（渡邊）

1-3 調査の方法

調査区の座標は公共座標を基準に設定した。

調査区は東西に走る道路工事位置に設定されている。面積は773m²を測る。

調査にあたっては、重機を用いて表土・耕作土層を撤去し、主として人力で遺構確認面までの掘り下げを行った。包含層および遺構内出土の主たる遺物については、原則として光波測量機を用いて3次元記録を実

施した。また、遺構については、デジタルカメラによる写真測量と手実測作業を併用した。写真撮影にあたっては 35mm モノクロフィルム、35mm カラーリバーサルフィルム、デジタルカメラ(1330 万画素)を併用し、適宜、記録撮影を行った。

(渡邊)

1-4 基本土層(第1図・図版6)

調査区内の西側及び中央部分の 2ヶ所において基本土層確認のため土層観察作業を行った。基本土層の概要は以下の通りであるが、概要の第Ⅰ層は耕作・盛土土層のため、第1図には反映されていない。

第Ⅰ層 耕作・盛土土層

第Ⅱ層 10YR4/6 褐色土層 ロームブロックを少量、ローム粒を微量含む。縮りあり、粘性あり。
(ソフトローム層)

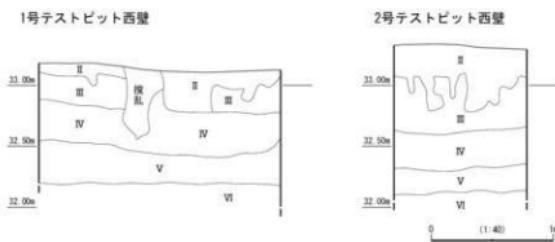
第Ⅲ層 10YR7/6 明黄褐色土層 黒色・橙色粒子を微量含む。縮り強い、粘性あり。(ハードローム層)

第Ⅳ層 10YR5/8 黄褐色土層 赤色・黒色粒子を少量含む。縮り強い、粘性あり。

第Ⅴ層 10YR7/8 黄橙色土層 黒色粒子を少量含む。縮り強い、粘性あり。

第VI層 鹿沼輕石土層

(林)



第1図 基本土層図(1:40)

1-5 検出された遺構の概要

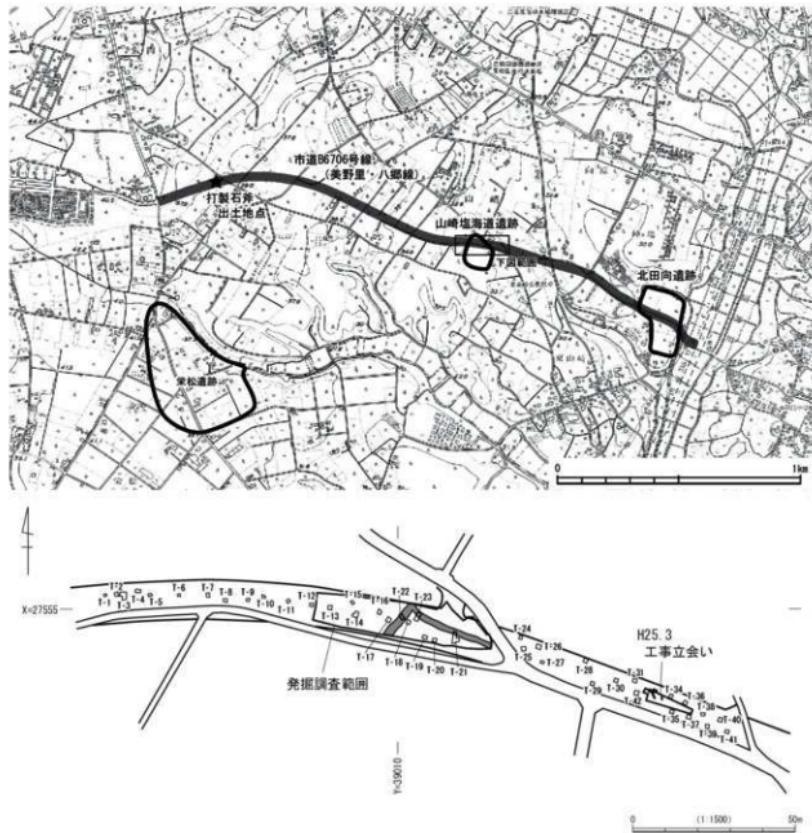
今回の調査で検出された遺構は、溝 3 条、土坑 12 基、道路状遺構 1 条、屋外炉 1 基、ピット 126 基を数える。このうち、縄文時代に属するのは土坑が 2 基だけで、残りは中世ないし中世以降の遺構である。いずれも木の根や攪乱著しく、遺存状態は悪かった。

(渡邊)

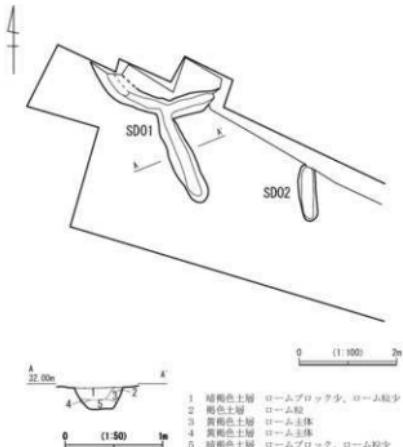
1-6 工事立会い

試掘調査において時期不明の溝を確認した地点については、工事立会いを行った。調査地は、発掘調査地点の東側約60mのところにある。地番は石岡市山崎3291-4ほかで、調査面積は38m²、調査期間は平成25年3月21日～22日の2日間である。

調査の結果、溝2条（SD01・SD02）を確認した。SD01は、東西方向のものと南北方向のものが連結したT字形の溝である。2つの異なる溝が重複している可能性も考慮したが、遺構の覆土は同一であり、掘り下げた結果、連結部の移行もスムーズであることから、同一の溝と判断した。東西方向のものはゆるやかに弧状を描いており、調査区域外へと延びる。最大幅50cm、深さ22cmで、自然堆積である。



第2図 試掘調査・工事立会い地点全体図（1：20,000）（1：1,500）



第3図 SD01・SD02 (1:100・1:50)



第4図 工事立会い地点全景（西から）

SD02は、南北方向の溝である。確認された長さは120cmで、北側は調査区域外へと延びる。最大幅35cm、深さ8cmで、自然堆積である。

SD01・02および表土からも遺物の出土はない。

(谷伸)

第2章 遺跡の位置と環境

2-1 地理的環境

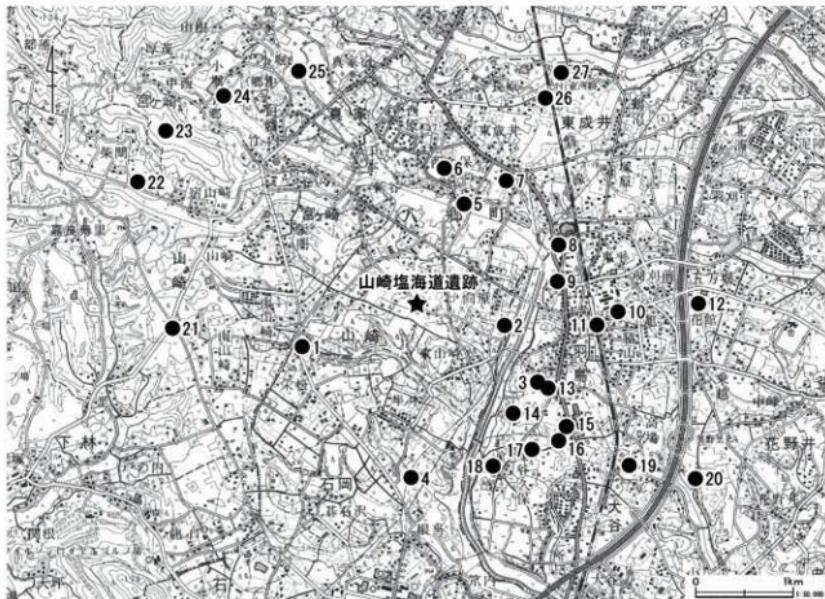
茨城県石岡市は県のほぼ中央部に位置し、南東部には霞ヶ浦が、西方には筑波山系の山々が連なり、北東側で笠間市、東側で小美玉市、南側でかすみがうら市及び土浦市、南西側でつくば市、北西側で桜川市と接している。本遺跡は旧八郷町に位置しているが、平成17年10月1日をもって、石岡市と八郷町が合併して石岡市となっている。

山崎塩海道遺跡は旧八郷町の東端に位置し、JR常磐線の石岡駅から南へ約7.5km、羽鳥駅へ東に約2.5km、園部川の南岸約1.0kmのやや奥まった台地上に位置する。標高は約32~33mを測る。今回の調査地点は遺跡の北側にあたる。

(渡邊)

2-2 歴史的環境

園部川南岸に位置する本遺跡周辺では発掘事例が少なく、不明な点が多いが、茨城県教育財団による猫松遺跡(27)、長原遺跡(26)、石岡市教育委員会による東成井山ノ神遺跡(6)などの発掘調査が進められ、徐々にこの地域の歴史が明らかになっている。



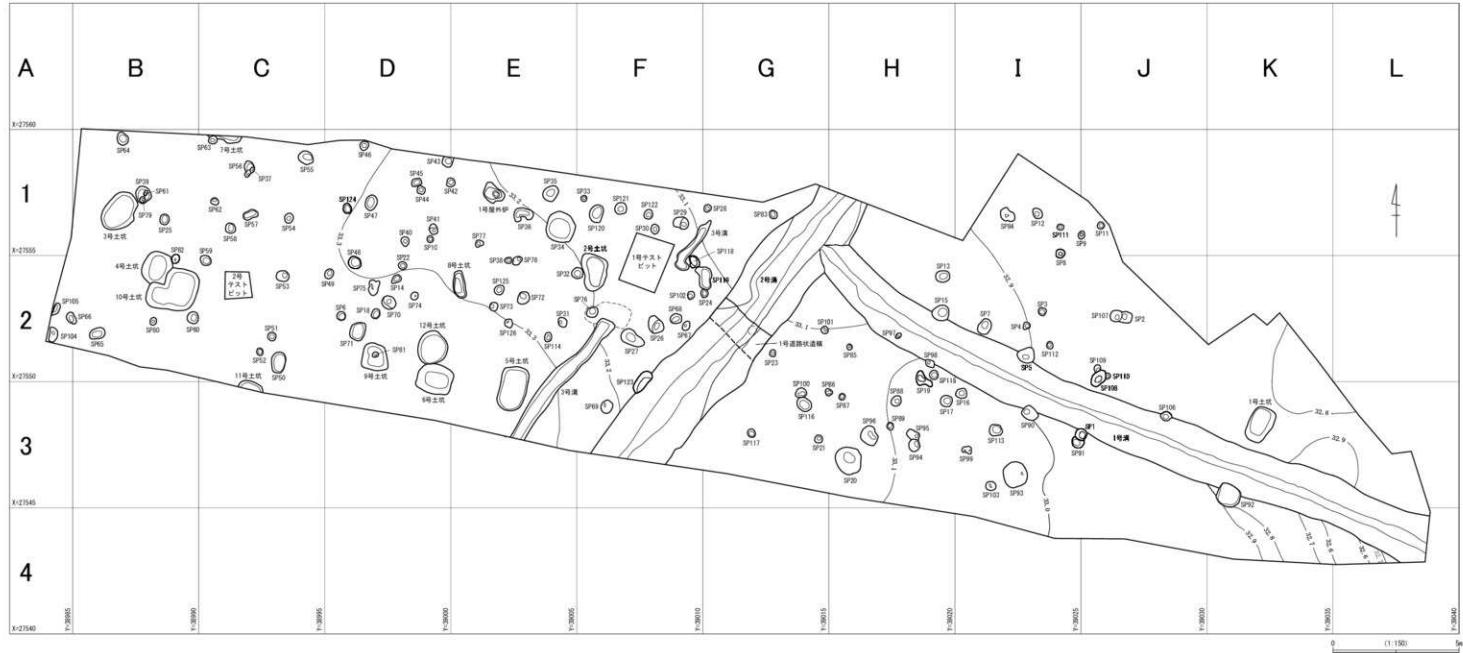
第5図 山崎塩海道遺跡の位置 (1:50,000)

第1表 周辺遺跡一覧表

遺跡番号	遺跡名	時代・時期						遺跡番号	遺跡名	時代・時期						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
1	栄松遺跡	○				○		15	西表遺跡			○	○			
2	北田向遺跡	○						16	十二所遺跡	○		○	○			
3	西茶遺跡	○						17	神明塚古墳群			○				
4	清水原遺跡	○			○	○	○	18	山神古墳			○				
5	西久保遺跡				○	○		19	五万振遺跡			○				
6	東成井山ノ神遺跡	○		○	○	○		20	愛宕山古墳群			○				
7	東成井東原遺跡	○		○				21	さど塚遺跡							○
8	逆瀬遺跡	○						22	聖門・宮久保遺跡				○			
9	西平遺跡	○						23	厚茂古墳群			○				
10	鷺山遺跡	○		○	○			24	真家木崎遺跡	○		○				
11	羽鳥船跡					○		25	真家館址							○
12	五万振遺跡					○		26	長原遺跡			○	○			
13	西丸北遺跡							27	猫松遺跡	○	○	○	○			
14	向茶遺跡	○														

猫松遺跡（27）では旧石器時代の石器集中区4ヶ所と縄文時代の住居跡、陥し穴、古墳時代の住居跡などが検出され、長原遺跡（26）でも縄文時代の陥し穴が2基検出されている。東成井山ノ神遺跡では、古墳時代～奈良・平安時代の住居跡や中世の地下式坑や溝跡が検出されており14世紀前後の溝跡からは仏像鉄型が出土している。しかし、発掘調査が実施されている遺跡はこの程度であり、他は栄松遺跡（1）、北田向遺跡（2）、東成井東原遺跡（7）、西平遺跡（9）や脇山遺跡（10）、小美玉市の逆瀬遺跡（8）などが周知されている遺跡となる。本調査において検出された遺構の中心的な時期である中世の遺跡としては羽鳥船跡（11）、真家館址（25）などが知られている。中世以降の当該地は平氏、八田氏、佐竹氏と領主が変遷し、近世になって佐竹氏の秋田転封により志筑本堂氏の所領となっている。

(渡邊)



第6図 遺跡全体図 (1:150)

第3章 調査の方法と成果

3-1 概要

今回の発掘調査地点は山崎塩海道遺跡の北側にある。近隣では試掘調査以外発掘調査は行われていない。今回の調査は、道路工事に伴う記録調査を目的として実施された発掘調査である。調査区は道路工事の行われる予定の長さ約 55 m、幅約 10 m の不整な長方形に設定している。遺構を確認した面は概ねソフトローム上面であるが、調査区の各所に径 40 cm 程度の樹木が育っていて、遺構の残存度は非常に悪かった。検出された遺構としては溝 3 条、土坑 12 基、道路状遺構 1 条、屋外炉 1 基、ピット 126 基を数える。遺物は縄文時代から近世以降まで合計で 105 点、2443.6 g 出土している。内訳は、縄文土器の深鉢、須恵器の壺、壺、鉢、土師器の壺、高台付壺、壺、土師質土器の土鍋、擂鉢、壺、カワラケ、鉢、陶器の天目茶碗や皿、焰器の壺、砥石などである。このうち、中世以降の遺物が全体の 60% あまりを占める。

以下から時代ごとに検出された遺構の説明を行うが、ピットについては規則的な配列などは確認できなかったため、最後に若干の言及と第 8 表にて法量を提示するに留める。
(林)

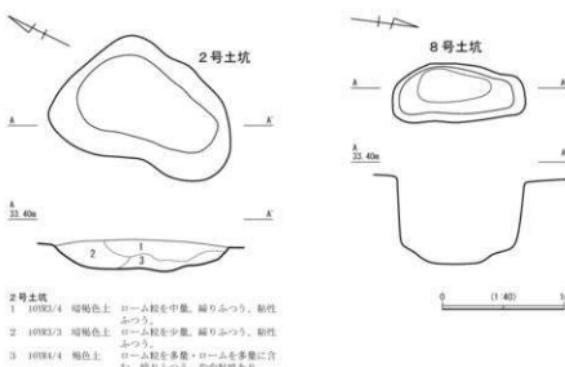
3-2 縄文時代

土坑 2 基が調査区の中央部で検出されているのみである。遺構に伴う遺物が出土していないため、平面形や覆土から時期を判断している。遺物は表土や試掘時において 6 点出土している。内訳は縄文時代後期加曾利 B 式期が 2 点、時代不明の深鉢が 1 点、磨石が 1 点、チャートの剥片が 2 点と極少数である。

(1) 遺構

2号土坑（第 7 図、図版 4）

調査区の中央部、F-2 区に位置する。平面形は不整形で、長径は約 145 cm、短径は約 105 cm、深さは約



第 7 図 2・8 号土坑 (1:40)

20 cmを測る。主軸方位はN - 5° - Eを示す。断面形は皿状で、壁は緩やかに立ち上がる。底面は概ね平坦である。覆土は3層に分けられ、自然の埋没である。遺物は出土していない。遺構の形状や覆土の状況より縄文時代に位置づけられる可能性が高いが、正確な時期や性格は不明である。

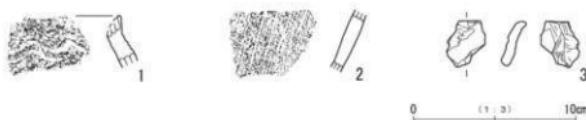
8号土坑（第7図、図版5）

調査区の中央部、E - 2区に位置する。平面形は長楕円形で、長径は約110 cm、短径は約50 cm、深さは約76 cmを測る。主軸方位はN - 7° - Wを示す。断面形は箱状で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はやや起伏を持つ。遺物は出土していない。遺構の形状や覆土の状況より縄文時代の陥穴であろう。しかし正確な時期は不明である。

（2）遺構外から出土した遺物

遺構に伴わないが縄文土器は1号溝から1点、試掘時に2点、石器は6号土坑から1点、試掘時に2点出土している。

このうち縄文土器は2点、石器は1点図示することが出来た（第8図、第2表）。1は口縁部片で口縁部直下に蛇行する平行沈線を施している。2は胴部片でLR縄文を斜走するもので、1・2は縄文時代後期加曾利B式期であろう。3は6号土坑出土のチャート製縦長削片である。



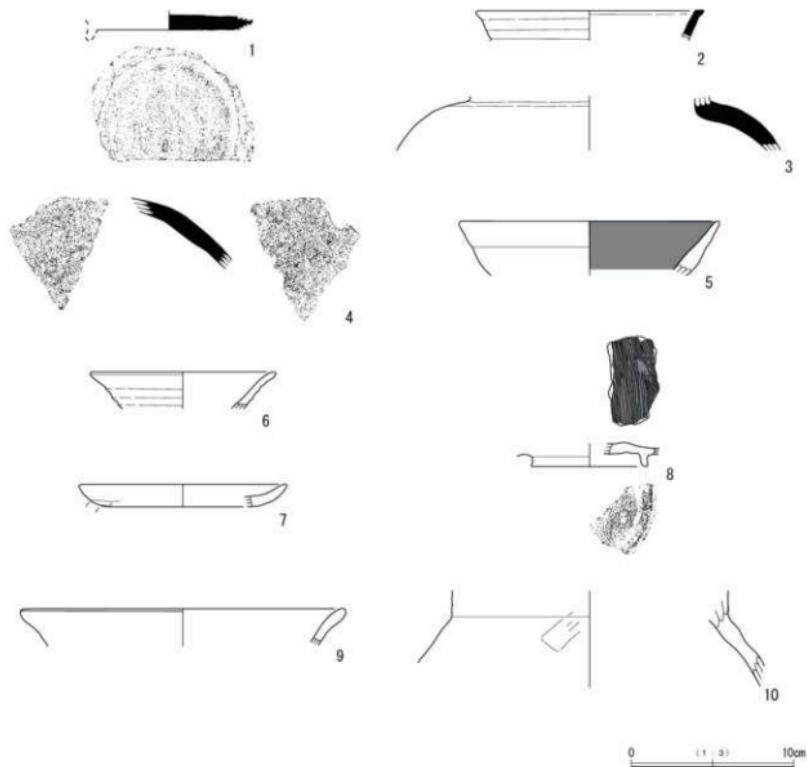
第8図 縄文時代遺構外出土遺物

第2表 縄文時代遺構外出土遺物観察表

番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	特徴・手法	胎土	色調	絶成	備考
1	SD01	中層	縄文土器	漆跡	口縁部	細片	-	-	<33>	口縁部直下に蛇行する平行 沈線を施す。底付帯にLR縄 文を施す。	白・赤色粒子 ・砂粒・粘土質 ・石英粒・黒雲母	7.5YR5/6 明黄色	良好	縄文時代後期 加曾利B式期
2	試掘	T-12	縄文土器	漆跡	胴部	細片	-	-	<36>	LR 沈文を斜走。	白色粒子・砂粒	表10YR8/3 1.5-2.5cm 裏10YR8/6 明黄色	良好	縄文時代後期 加曾利B式期
3	SK06	覆土	削片	-	-	-	長さ 26	幅 23	厚さ 0.6	縦長削片。右半部を横方向 の打撃で薄く削ぎ取ってい る。	-	-	良好	チャート製 36g

3-3 奈良・平安時代

明確な当該期の遺構は検出されていない。遺物は遺構に伴わない1号溝、2号溝および6号土坑ものや表土、試掘において27点出土している。内訳は須恵器の壺3点、壺が11点、鉢が1点、器種不明が2点である。土師器は壺が3点、高台付壺が1点、壺が6点出土している。このうち須恵器は4点、土師器は6点図示している（第9図、第3表）。1は2号溝から出土した須恵器の高台付壺底部である。2～4は須恵器壺の口縁部や胴部片である。このうち1と4は同一個体の可能性がある。3は1号溝からの出土である。1～3は新治窯跡群産の可能性が高い。5～7は土師器の壺である。6はロクロ成形、7は皿状の器高をもつもので



第9図 奈良・平安時代遺構外出土遺物

第3表 奈良・平安時代遺構外出土遺物観察表

番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	脚高 (cm)	特徴・手法	粘土	色調	地成	備考
1	SD02	中層	須恵器	高台付壺	底部	10	-	8.5	-	底部外表面右部大損。静止ハラナナ。後邊縫合ナラナナ及び骨ナラナナ。底部内面白然棘。	白・黒色粒子・石英粒	表 2SY5/2 裏 2SY5/2 裏 2SY5/3 裏 黄褐色	良好	新治窯跡群か 4と同一個体 か
2	表土		須恵器	壺	口縁部	10 (14.0)	-	<18>	-	口縁部微小に開く器形。口縁部を平型にして、僅かに外側に突出。口縁部外表面ヨコナナ。	白色粒子・石英粒	表 10Y5/1 裏 10Y5/1 裏 10Y5/1 裏 黄褐色	良好	新治窯跡群產
3	SD01	中層	須恵器	壺	肩部	細片	-	-	<24>	腹部外表面右側ハラナナ。底部ナラナナ。内面粗いナラナ。	白色粒子・石英粒	10YR6-3 10YR6-3 10YR6-3 裏 黄褐色	良好	新治窯跡群產
4	試掘	表土	須恵器	壺	腹部	細片	-	-	<30>	腹部内外面回転ナラナ。外面に自然棘。	白色粒子・砂粒	表 2SY5/2 裏 2SY5/2 裏 10Y5/1 裏 黄褐色	良好	1と同一個体 か
5	SK06	下層 P3	土師器	壺	口縁部 から 全体	細片	-	-	<33>	口縁部外表面ヨコナナ。体部は直線的。口縁部がわずかに外反。口縁部内面ヨコナナ。体部内外面回転ナラナ。ヨコナナ。	白・黒色粒子・ 石英粒	表 10YR7/4 10YR7/4 裏 10YR1-7/1 裏 黑色	良好	内里、9世紀後 半 - 10世紀前 半
6	表土		土師器	壺	口縁部 から 全体	10 (11.4)	-	<22>	-	口クロ底形。体部は直線的。口縁部がわずかに外反。口縁部内面ヨコナナ。体部内外面回転ナラナ。ヨコナナ。	白・赤色粒子・ 石英粒	7.5YR4-6 褐色	良好	9世紀後葉

番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	厚さ(cm)	特徴・手法	粘土	色調	地成	備考
7	試掘	表土	土師器	壺	口縁部から全体部	10	12.8	-	<13>	体部は膨らみをもち、口縁部切く直立。口縁部内外面ヨコナナ、体部内面ナナ、外面横方向のヘラケナリ。	白色粒子・赤色粒子・石英粒	10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	8世紀前半
8	表土		土師器	高台付壺	底部	10	-	(5.8)	<15>	見込み部二方向のヘラミガキ。底部外側左回転ヘラ切り離し後ナダ。高台部貼り付け。	白色粒子・石英粒 チャート粒・白	7.5V8E/6 橙色 表7.5R2/1 黑色	良好	内黒、搬入品 (茨城県中部より) 9世紀後半以降
9	試掘	T-14	土師器	壺	口縁部	細片	(19.9)	-	<22>	口縁部が大きく開く器形。内外面ヨコナナ。	白色粒子	表10Y5/6 明赤褐色 裏7.5R4/4 褐色	良好	
10	SD01	上層	土師器	壺	頭部から底部	10	-	-	<54>	外縁丁寧なナナ、内面横方向ヘラナダ。	白・赤・黒色粒子・ チャート粒・ 白母貝片	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	

ある。5は6号土坑、6・7は表土や試掘時の出土である。8は土師器の高台付壺である。表土に白色針状物質が混入していることから、茨城県の中央部からの搬入品と考えられる。9・10は土師器の壺、口縁部や頭部である。概ね9世紀後半から10世紀前葉に収まるが、7のみ8世紀前葉ごろの所産であろう。

3-4 中世以降

遺構に伴う遺物が少ないため、明確に時期区分は出来ない遺構が多かったため、ここでは、近世を含めて言及していく。検出された遺構は溝3条、土坑10基、道路状遺構1条、炉跡1基である。このうち明確に中世と判断できたものは溝が2条のみである。その他の遺構は明確な時期が確認できなかった。ピットは時代不明のものが大半だが、覆土の状況から当該期の所産のものが大多数と考えられる。遺物はカワラケや土師質土器の土鍋や擂鉢、陶器の皿、天目茶碗などを中心に66点出土している。

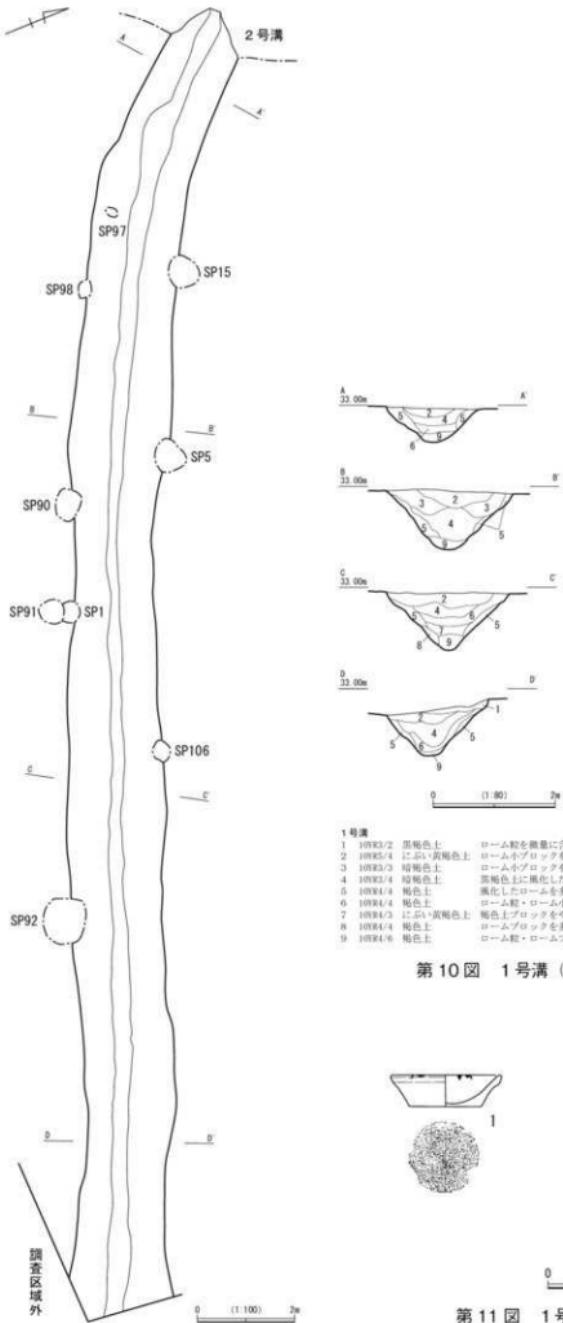
(1) 遺構

1号溝（第10図、図版1・2）

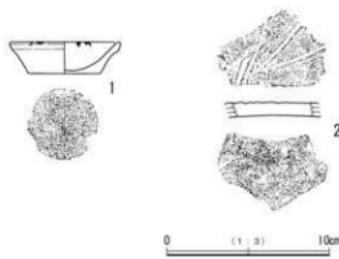
調査区東側に位置し、H-1から調査区東端であるL-4区へ南東方向に走る、H-1区付近で2号溝に合流する。確認部分の全長は約26.8m、上面幅約1.8~2.1m、底面幅約25~45cm、深さ72~141cmを測る。主軸の方向はN-68°-Wを示す。底面の標高は約31.82~32.41mを測り、やや東側に向かい傾斜している。底面は概ね平坦である。断面形は逆台形状を呈する。覆土は9層に分けられ、人為的な堆積状況を示す。遺物は繩文土器や須恵器、土師器の他、カワラケ、土師質土器の土鍋片や擂鉢が1点の合計6点出土している。このうちカワラケと土師質土器の擂鉢底部を図示し得た（第11図、第4表、図版7）。1は上層から出土したロクロ成形のカワラケである。2は中層から出土した土師質土器の擂鉢底部である。擂目の間隔からこの遺構と伴うと考えた。出土遺物や遺構の形状、覆土のあり方、位置、切り合い関係などから判断して中世、特に16世紀末には埋没し終わっていた区画溝であった可能性が高い。切り合い関係から2号溝に先行する。

2号溝（第12図、図版1~3）

調査区中央部に位置し、調査区南側のF-3区から北東方向に、G-H-1区まで走る。H-1区付近で1号溝に合流する。中央部覆土中層で東西に走る硬化面が検出されている（1号道路状遺構）。確認部分の全長は約13.4m、上面幅約2.1~2.7m、底面幅約25~83cm、深さ約76~101cmを測る。主軸の方向



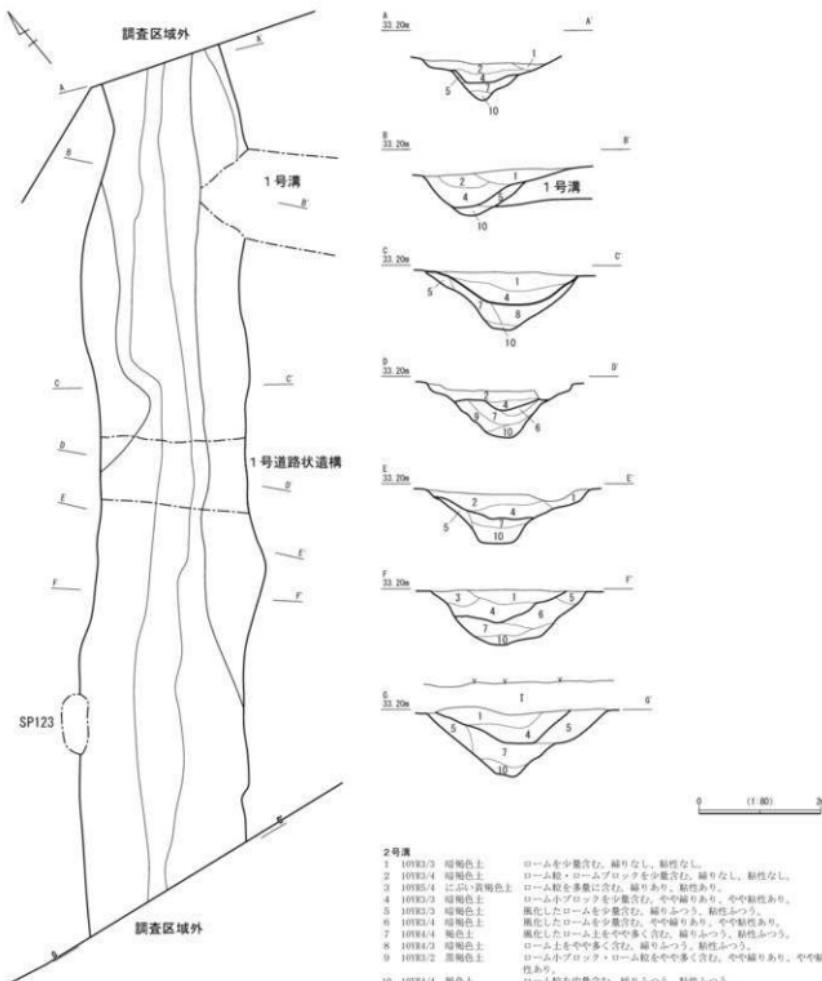
第10図 1号溝 (1:100, 1:80)



第11図 1号溝出土遺物

第4表 1号溝出土遺物観察表

番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	特徴・手法	粘土	色調	焼成	備考
1	SD01	上層	土師質 土器	カワラケ	口縁部 底部	90	6.6	2.2	1.9	口クロ成形。口縁部の外側ヨココナタ。体部内外側回転成型。丁度1/3ほど部分的に回転を切り離し後ヘアヌデで調整。	白・赤色粒子・石英粒・白雲母片	7.5YR5/6 明褐色	良好	口縁部に黒色付着物 16世紀末～ 17世紀前葉
2	SD01	中層	土師質 土器	擂鉢	底部	細片	—	—	—	底部内面2～3条1重の環状目を放射状に施す。外側はナマ。	白・赤色粒子・石英粒・セメント粒・白雲母片	表7.5YR4/3 褐色 裏7.5YR5/6 明褐色	良好	



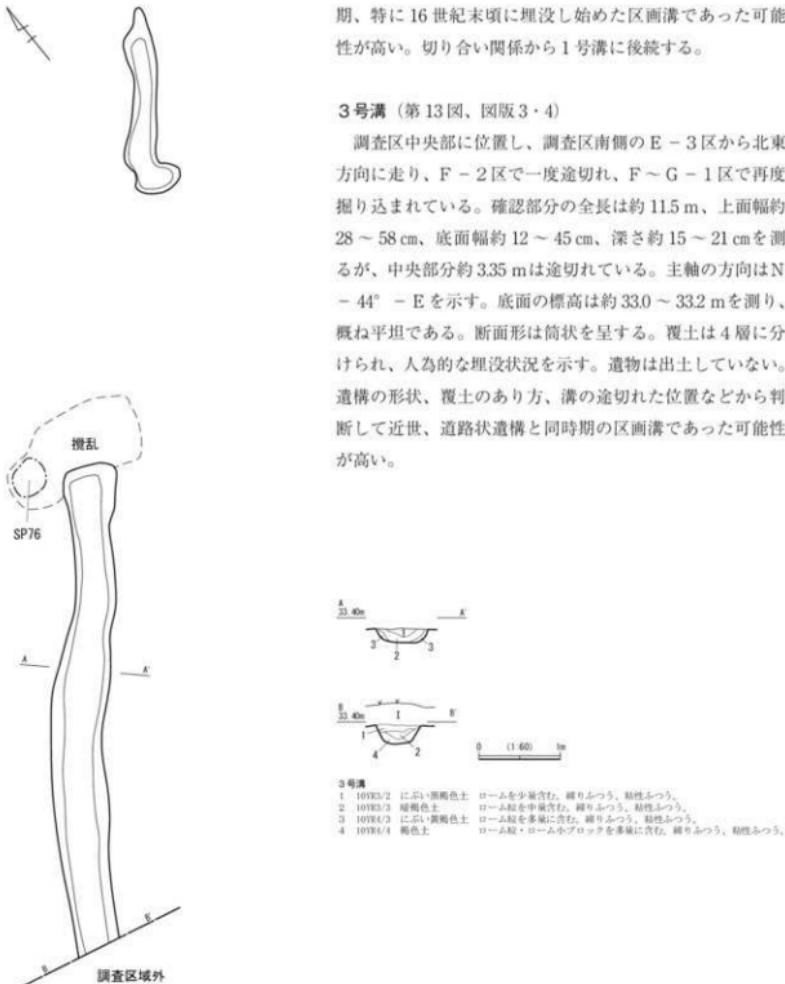
第12図 2号溝 (1:80)

はN - 39° - Eを示す。底面の標高は約31.90 ~ 32.27 mを測り、中央部が僅かに盛り上るが、概ね平坦である。断面形は逆台形状を呈する。覆土は10層に分けられ、まず5 ~ 10層が自然に埋没した後に一度掘り返され、その後1 ~ 4層が人为的に埋没している。その人为的な埋没前に、2号溝を横断する様に1号道路状遺構が造られている(D ~ D'の6・7・9層上面)。遺物は須恵器の壺や壺、カワラケ、土師質土器の壺の合計8点が出土しているが、須恵器高台付壺の他は細片のため図示し得なかった。出土遺物や遺構の形状、

覆土のあり方、位置、切り合い関係などから判断して中世期、特に16世紀末頃に埋没し始めた区画溝であった可能性が高い。切り合い関係から1号溝に後続する。

3号溝（第13図、図版3・4）

調査区中央部に位置し、調査区南側のE - 3区から北東方向に走り、F - 2区で一度途切れ、F ~ G - 1区で再度掘り込まれている。確認部分の全長は約11.5 m、上面幅約28 ~ 58 cm、底面幅約12 ~ 45 cm、深さ約15 ~ 21 cmを測るが、中央部分約3.35 mは途切れている。主軸の方向はN - 44° - Eを示す。底面の標高は約33.0 ~ 33.2 mを測り、概ね平坦である。断面形は筒状を呈する。覆土は4層に分けられ、人为的な埋没状況を示す。遺物は出土していない。遺構の形状、覆土のあり方、溝の途切れた位置などから判断して近世、道路状遺構と同時期の区画溝であった可能性が高い。



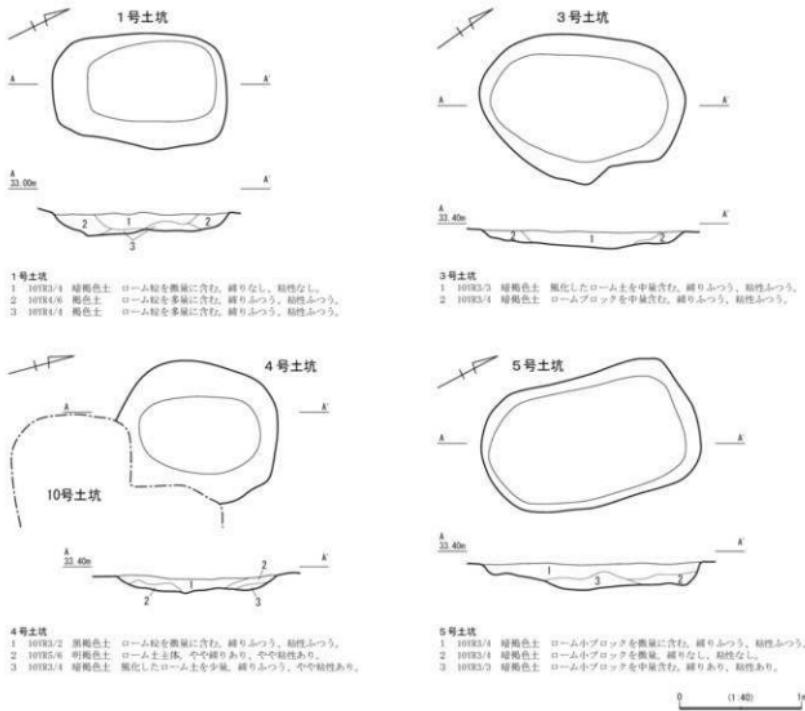
第13図 3号溝(1:60)

1号土坑（第14図、図版4）

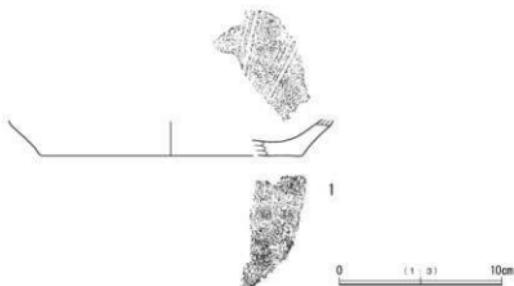
調査区の東側、K-3区に位置する。平面形は隅丸方形で、長径は約142cm、短径は約95cm、深さは約14cmを測る。主軸方位はN-26°-Eを示す。断面形は皿状で、壁は緩やかに立ち上がる。底面は概ね平坦である。覆土は3層に分けられ、人為的な埋没である。遺物は流れ込みと考えられる土師質土器の擂鉢が1点出土している（第15図、第5表、図版7）。4条1単位の擂目をもつ。遺構の形状や覆土の状況より近世以降の芋穴であろう。

3号土坑（第14図、図版4）

調査区の西側、B-1区に位置する。平面形は不整形で、長径は約145cm、短径は約105cm、深さは約10cmを測る。主軸方位はN-41°-Eを示す。断面形は皿状で、壁は緩やかに立ち上がる。底面は概ね平坦である。覆土は2層に分けられ、人為的な埋没である。遺物は出土していない。遺構の形状や覆土の状況より近世以降の芋穴であろう。



第14図 1・3~5号土坑 (1:40)



第15図 1号土坑出土遺物

第5表 1号土坑出土遺物観察表

番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	特徴・手法	胎土	色調	焼成	備考
1	SK01	覆土	土師質土器	罐鉢	側部から底部	細片	-	(16.5)	<23>	側面内面4条1単位の縦目を放射状に施す。外側はナデ。底部外側多方向へのラケスリ。	白・赤色粒子・石英粒・チヤート粒 ・白雲母片	表7.5YR4/3褐色 表2.5YR5/6明褐色	良好	

4号土坑（第14図、図版4）

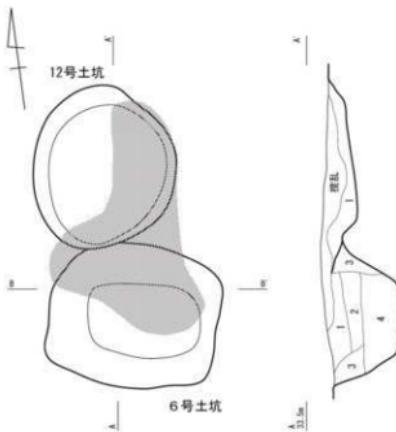
調査区の西側、B-2区に位置する。平面形は楕円形で、長径は約140cm、短径は約107cm、深さは約9cmを測る。主軸方位はN-27°-Eを示す。断面形は皿状で、壁は緩やかに立ち上がる。底面は概ね平坦である。覆土は3層に分けられ、人為的な埋没である。遺物は出土していない。遺構の形状や覆土の状況より近世以降の芋穴であろう。10号土坑に先行する。

5号土坑（第14図、図版4）

調査区の西側、E-3区に位置する。平面形は隅丸方形で、長径は約180cm、短径は約107cm、深さは約18cmを測る。主軸方位はN-17°-Eを示す。断面形は箱状で、壁は急角度に立ち上がる。底面は概ね平坦である。覆土は3層に分けられ、人為的な埋没である。遺物は出土していない。遺構の形状や覆土の状況より近世以降の芋穴であろう。

6号土坑（第16図、図版5）

調査区の西側、D-2~3区に位置する。平面形は不整円形で、長径は約150cm、深さは約56cmを測る。主軸方位はN-76°-Wを示す。断面形は箱状で、壁は急角度に立ち上がる。底面は概ね平坦である。覆土は4層に分けられ、人為的な埋没である。上面に焼土を含む搅乱が拡がっている。遺物は縄文時代の剥片、土師器の壺、土師質土器のカワラケ、甕、焼成土塊が合計6点出土している。このうち縄文時代の剥片、土師器壺の他土師質土器の甕、焼成土塊の2点を図示し得た（第17図、第6表、図版7）。1は土師質土器の甕底部である。丁寧にナデを施されている。2は焼成土塊である。スサ痕が確認できる。出土遺物や遺構の形状、覆土の状況より近世以降の芋穴であろう。12号土坑に先行する。

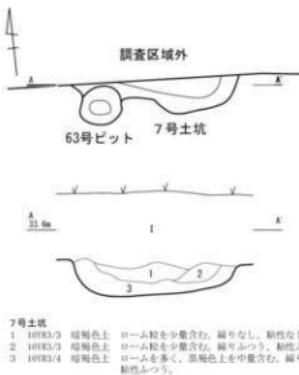


6号土坑

- 1 10YR4/4 喀褐色上 ロームブロック多量に含む。後土をブロック状に微整。やや縮りあり、やや粘性あり。
- 2 10YR3/2 喀褐色土 縮りふつう。粘性ふつう。
- 3 10YR4/4 喀褐色上 ロームを中量含む。縮りふつう。粘性ふつう。
- 4 10YR4/3 にかい黄褐色土 脱化したロームを多量に含む。縮りふつう。粘性ふつう。

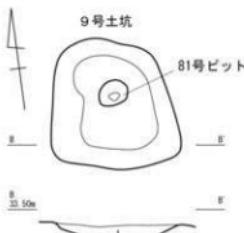
12号土坑

- 1 10YR3/4 喀褐色土 ロームブロックを多量に含む。縮りふつう。粘性ふつう。



7号土坑

- 1 10YR3/2 喀褐色土 ローム粒を少量含む。縮りふつう。粘性なし。
- 2 10YR3/2 喀褐色土 ロームを少量含む。縮りふつう。粘性ふつう。
- 3 10YR3/4 喀褐色土 ロームを多く、黒褐色土を中量含む。縮りふつう。粘性ふつう。



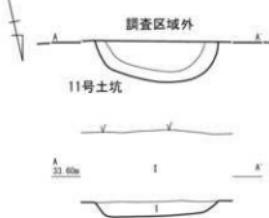
9号土坑

- 1 10YR3/4 喀褐色土 ロームブロックを多量に含む。縮りふつう。粘性ふつう。



10号土坑

- 1 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒を微量に含む。縮りなし。粘性なし。
- 2 10YR4/4 喀褐色土 脱化したローム土を少量。縮りふつう。粘性ふつう。

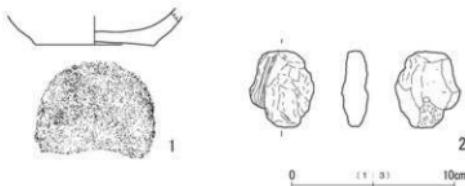


11号土坑

- 1 10YR4/3 にかい黄褐色土 ロームブロックを少量含む。やや縮りあり。粘性あり。

0 (1:40) 1m

第16図 6・7・9~12号土坑 (1:40)



第17図 6号土坑出土遺物

第6表 6号土坑出土遺物観察表

番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	厚さ (cm)	特徴・手法	胎土	色調	焼成	備考
1	SK06	下層 P1	土器質 土器	甕	胴部から底部	10	-	(7.6)	<2.4>	胴部内面から見込み部ナデ 見込み部の一部ヘラナデ。 胴部外側多方向ヘラナデ後 上部なだす。底部外側左回 転手切り削し後ナデ。	白・赤色粒子・石 英粒・チャート粒 ・白雲母片	7.5YR6/6 明褐色	良好	
2	SK06	中層 焼成土塊	-	-	定形	長さ 47	幅 40	厚さ 16	一部にスカラ風。			7.5YR6/8 褐色	良好 重さ21.0kg	

7号土坑（第16図、図版5）

調査区の西側、C - 1区に位置する。遺構の北側の大半が調査区外であるため、その部分については調査できなかった。平面形は隅丸方形で、長径は約102cm以上、短径は約29cm以上、深さは約16cmを測る。主軸方位はN - 70° - Wを示す。断面形は箱状で、壁はやや急角度に立ち上がる。底面は概ね平坦である。覆土は3層に分けられ、人為的な埋没である。遺物は出土していない。遺構の形状や覆土の状況より近世以降の芋穴であろう。63号ピットに先行する。

9号土坑（第16図、図版5）

調査区の西側、D - 2区に位置する。平面形は不整梢円形で、長径は約125cm、短径は約112cm、深さは約12cmを測る。主軸方位はN - 70° - Eを示す。断面形は皿状で、壁は緩やかに立ち上がる。底面は概ね平坦である。覆土は単一層で、人為的な埋没である。遺物は出土していない。遺構の形状や覆土の状況より近世以降の芋穴であろう。81号ピットに後続する。

10号土坑（第16図、図版5）

調査区の西側、B - 2区に位置する。平面形は不整形で、長径は約183cm、短径は約171cm、深さは約16cmを測る。主軸方位はN - 76° - Wを示す。断面形は皿状で、壁は緩やかに立ち上がる。底面はやや起伏を持つ。覆土は2層で、人為的な埋没である。遺物は出土していない。遺構の形状や覆土の状況より近世以降の芋穴であろう。4号土坑に後続する。

11号土坑（第16図、図版5）

調査区の西側、C - 3区に位置する。遺構の南側の半分が調査区外であるため、その部分については調査できなかった。平面形は梢円形で、長径は約100cm以上、短径は約33cm以上、深さは約8cmを測る。主軸方位はN - 12° - Eを示す。断面形は箱状で、壁はやや急角度に立ち上がる。底面は概ね平坦である。覆土は単一層で、人為的な埋没である。遺物は出土していない。遺構の形状や覆土の状況より近世以降の芋穴である。

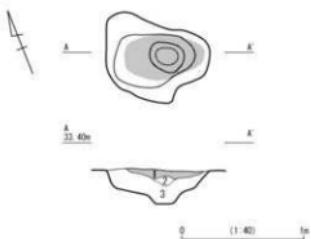
あろう。

12号土坑（第16図、図版5）

調査区の西側、D-2区に位置する。平面形は円形で、長径は約138cm、深さは約21cmを測る。断面形は箱状で、壁はやや急角度に立ち上がる。底面は概ね平坦である。覆土は単一層で、人为的な埋没である。上面に焼土を含む搅乱が折がっている。遺物は出土していない。遺構の形状、覆土の状況より近世以降の芋穴であろう。6号土坑に後続する。



第18図 1号道路状遺構 (1:40)



1号屋外炉

- 1 10YK3/1 粘褐色土 地上部を中量含む。硬りなし。粘性なし。
- 2 10YK3/2 黑褐色土 ローム粒を微量含む。硬りなし。粘性なし。
- 3 10YK4/1 黄色土 黑化したローム土を多量に含む。やや硬りあり。やや粘性あり。

第19図 1号屋外炉 (1:40)

1号道路状遺構（第18図、図版4）

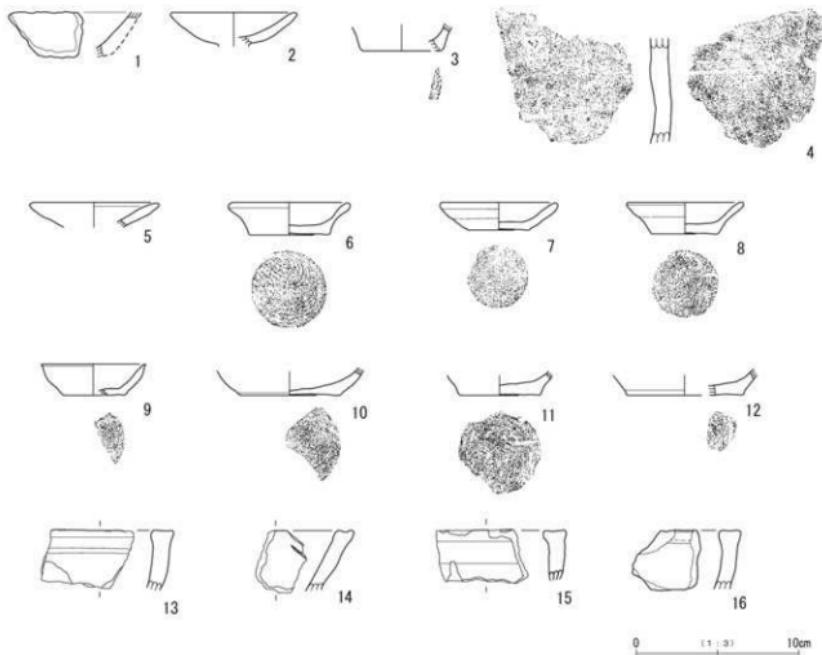
調査区の中央部、G-2区に位置する。2号溝内の断面において硬化面が確認されたが、溝外側の部分に硬化面は確認されていない。長軸は約25m、幅は約1.1m以上を測る。硬化面上面は平坦で、薄く黒褐色土の單一層で形成されている。遺物は出土していない。2号溝の覆土の中層に作られていることより近世の所産であろう。2号溝に後続する。なお、土層断面図は2号溝D-D'中の6・7・9層の上面（第12図）である。

1号屋外炉（第19図、図版4）

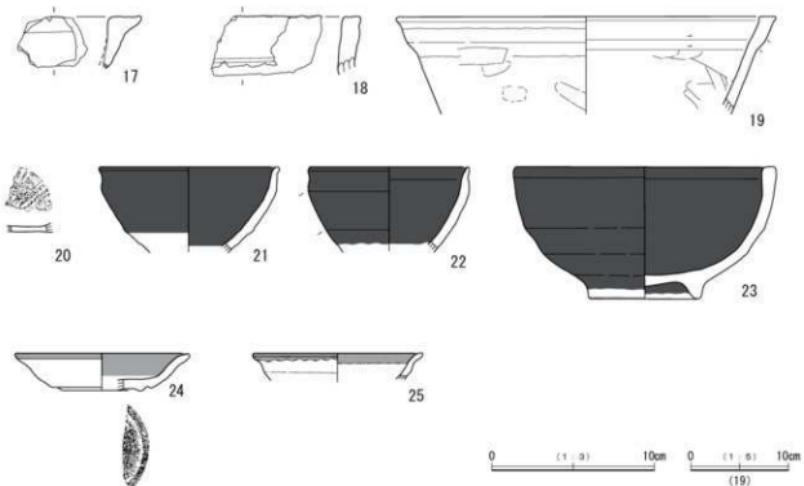
調査区のやや西側、E-1区に位置する。平面形は不整形で、長径は約84cm、短径は約80cm、深さは約26cmを測る。断面形は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がる。底面はやや起伏に富む。覆土は3層に分けられ、自然な埋没である。火床面は確認されなかった。遺物は出土していない。遺構の形状、覆土の状況より近世以降に使用された野焼き跡の可能性が高い。

(2) 遺構外から出土した遺物

ここでは遺構に伴わない遺物や、ピット出土の遺物、表土、試掘時出土の遺物をまとめて言及していく。これらの遺物は合計で48点出土しているが、大半が細片のため時期が判断できる遺物は少なかった。内訳は、土師質土器のカワラケ、甕、鉢、擂鉢、土鍋、陶器の天目茶碗や皿、炻器の甕である。48点のうち25点図示することが出来た(第20図、第7表、図版8)。2・3・5~12はカワラケである。2は14号ピット、3は92号ピットの出土、5~12は表土や試掘時の出土である。器形は色々なタイプが出土しているが、65~80cmの口径を持つものが大半である。1~13~16は土師質土器の土鍋である。内耳部は出土していない。1は底部で7号ピットの出土である。13~16は表土や試掘時の出土である。17~18は口縁部の形状から土師質土器の甕および壺と思われるが、細片のため明確ではない。19は土師質土器の鉢である。20は土師質土器の擂鉢胴部の細片である。21~25は陶器類である。21・22は天目茶碗である。口縁部の立ち上がりの差異から別個体と考えられる。よく使われている。23は碗である。やや大振りで口縁部の形状から天目茶碗としなかったが、用途は同じと考えられる。あまり使用されていない。17世紀後葉から18世紀前葉と考えられる。24~25瀬戸美濃系の灰釉高台皿である。4は93号ピットから出土した炻器の甕である。カワラケ、天目茶碗、灰釉高台皿から考えてほぼ16世紀末から17世紀前葉に納まる。



第20図 中世以降遺構外出土遺物(1)



第21図 中世以降遺構外出土遺物（2）

第7表 中世以降遺構外出土遺物観察表

番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	特徴・手法	胎土	色調	焼成	備考
1	SP07	上層	土師質土器	土鍋	胴部から底部	細片	-	-	<29	側部外面削面直彫。内面ナデ。	白色粒子・白雲母片	10YR6/6 明赤褐色	良好	
2	SP14	上層	土師質土器	カワラケ	口縁部から底部	25	80	-	<23	ロクロ成形。口縁部内外面ナデ。体部内面削面直彫。	白・黒・赤色粒子・石英片	7.5YR7.6/6 稍褐色	良好	16世紀末～17世紀前期
3	SP92	上層	土師質土器	カワラケ	体部から底部	細片	-	(5.2)	<13	体部内外面削面直彫ナデ。底部外削面削直彫切り離しナデ。	白色粒子	7.5YR6/6 稍褐色	良好	
4	SP93	上層	容器	甕	胴部	細片	-	-	<63	内面僅かに縦彫直・内外面ナデ。	白色粒子・石英片 チャート粒・練	10YR5/3 に赤・黄褐色	良好	常滑焼
5	表土		土師質土器	カワラケ	口縁部から底部	細片	(7.8)	-	13	ロクロ成形。体部が大きく圓く膨らむ。口縁部内外面ヨコナデ。内面削面直彫ナデ。底部外削面直彫ナデ。体部内外面削面直彫。	白・黒色粒子・石英粒・白雲母片	7.5YR6/6 稍褐色	良好	17世紀前葉
6	試掘	T-14	土師質土器	カワラケ	口縁部から底部	70	7.4	42	20	ロクロ成形。口縁部が大きく膨らむ。底部外削面直彫ナデ。底部が大きく突出。口縁部から体部内外面削面及び見込み部右回転ロクロ巻き上げ直彫。底部外削面直彫ナデ。	白・黒色粒子・チャート粒・白雲母片	5YR5/6 明赤褐色	良好	17世紀前葉
7	表土		土師質土器	カワラケ	口縁部から底部	90	7.0	38	17	ロクロ成形。側面に部分突起。口縁部が大きく膨らむ。底部外削面直彫ナデ。見込み部右回転ロクロ巻き上げ直彫。底部外削面直彫ナデ。	白・赤色粒子・石英粒・白雲母片	表7.5YR6/6 稍褐色 裏7.5YR5/8 明赤褐色	良好	16世紀末～17世紀前葉
8	表土		土師質土器	カワラケ	口縁部から底部	75	(6.8)	40	19	ロクロ成形。体部がすこしひょうりん。口縁部内外面削面直彫ナデ。底部外削面直彫ナデ。見込み部右回転ロクロ巻き上げ直彫。底部外削面直彫ナデ。	白・黒色粒子・チャート粒・白雲母片	5YR5/8 明赤褐色	良好	16世紀末～17世紀前葉
9	表土		土師質土器	カワラケ	口縁部から底部	25	(6.2)	(4.2)	17	ロクロ成形。体部が大きく膨らむ。口縁部内外面削面直彫ナデ。底部外削面直彫ナデ。見込み部右回転ロクロ巻き上げ直彫。底部外削面直彫ナデ。	白色粒子・白雲母片	10YR5/4 に赤・黄褐色	良好	16世紀末～17世紀前葉
10	試掘	T-14	土師質土器	カワラケ	体部から底部	25	-	(6.4)	<16	ロクロ成形。体部直彫線の。底部内面削面直彫。	白・黒色粒子・チャート粒・金雲母片	5YR5/8 明赤褐色	良好	
11	表土		土師質土器	カワラケ	体部から底部	25	-	49	<15	ロクロ成形。体部内面削面直彫。見込み部右回転ロクロ巻き上げ直彫。底部外削面直彫ナデ切り離し後未調整。	白・黒色粒子・白雲母片	7.5YR6/6 稍褐色	良好	

番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	残存率 (%)	口徑 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	特徴・手法	胎土	色調	焼成 備考
12	表土		土器質 土器	カワラケ から部器	細片	-	(3.6)	-	<1.6	口クロ成形。体部内外面及 内面に凹み部有る。外側 外縁回転方向不明。底心切 りなし。	白・赤色粒子・ チャーテット・ 石英粒・白雲母片	5YR6/6 褐色	良好
13	表土		土器質 土器	口縁部 から 底部	細片	-	-	-	<3.7	口部部平坦にして、端部を 内面に突出して、端部外面強 いヨコナギ。腹部内外面ナダ 。	白・赤色粒子・ 石英粒	10YRS/4 にぶい黃褐色	良好 外縁多量のス ス付着
14	表土		土器質 土器	口縁部 から 底部	細片	-	-	-	<3.3	口部部平坦にして、唇かに 外縁突出して、腹部内外面ナ ダ。	白色粒子・チャーテ ット・石英粒	10YR3/3 にぶい黃褐色	良好 燒成の切れ 込み有り
15	試掘	T-3	土器質 土器	口縁部 から 底部	細片	-	-	-	<3.3	口部部平坦にして、内面に つまみ出さる。腹部内外 面回転ナダ。	白・赤色粒子・ 石英粒	7.5YR9/2-1 裏7.5YR5/4 にぶい黒	良好 外縁スス多量 に付着
16	試掘	表土	土器質 土器	土鍋	口縁部 から 底部	細片	-	-	<3.6	口部部平坦にして、造り出 物部内外面ナダ。	白色粒子	7.5YR6/6 褐色	良好
17	試掘	T-22	土器質 土器	甕	口縁部 から 底部	細片	-	-	<3.1	口部部平坦。内側の1辺に 張り出しだす。外側に突出 する。腹部内外面ナダ、内面 回転。	白・赤色粒子・ 石英粒	7.7YR5/4 にぶい褐色	良好
18	試掘	T-23	土器質 土器	甕	口縁部	10	15.8	-	<3.6	口部部平坦にして、外側 に張り出しだす。口部内外面 にヨコナギ。	白・赤色粒子・ 石英粒	7.5YR5/4 赤 明褐色	良好
19	表土		土器質 土器	鉢	口縁部 から 底部	20	38.8	-	<10.0	腹部は直線的に口部部平坦 にして、内側に張り出しだす。 内縁に上部横筋方向のヘラナ ゲナダ。中位多方向のヘラナ ゲナダ後ナダ。外縁多方向のヘラ ナダ後ナダ。	白・黒色粒子・ 石英粒	10YR6/4 にぶい黃褐色	良好
20	試掘	T-14	土器質 土器	擂鉢	底部	細片	-	-	<2.2	底部内外面ナダ、内面に横 筋。	白色粒子・ 白雲母片	表10YR4/2 10YR6/6 褐色 裏10YR6/6 明褐色	良好
21	表土		陶器	天目茶碗	口縁部 から 体部	30	(10.4)	-	<3.2	体部は膨らむをもち、上位 内は凸、口部部は短く外側 突出する。口部部は全体部 内面黒釉、外側下位無釉で なる。接頭が無く。	白色粒子	10YR3/1 黒褐色	良好 16世紀末～ 17世紀前葉
22	試掘	T-18	陶器	天目茶碗	口縁部 から 体部	10	9.8	-	<3.2	体部は膨らむをもち、上位 内は凸、口部部は短く外側 突出する。口部部は全体部 内面黒釉、外側下位無釉で なる。接頭が無く。	白色粒子	7.5YR2/1 黒色	良好 瀬戸天目酒呑 16世紀後半
23	試掘	表土	陶器	碗	口縁部 から 底部	20	(16.2)	63	8.1	やや口縁部を厚めて直角 に立ち上がり、全体部回転 する。内縁に横筋方向のヘ ラナダ。中位多方向のヘラナ ゲナダ。高台回転なし。底 づき窪合。黒釉。	黒色粒子・ 白色粒子	7.5YR2/1 黒色	良好 17世紀後葉か 18世紀前葉
24	表土		陶器	高台皿	口縁部 から 底部	20	(10.8)	(7.0)	2.2	体部は膨らむをもち、口縫 部が大きくなつて、全体部 内面及び底面に横筋多方向 のヘラナダ。全体部回転す る。内縁に横筋方向のヘラナ ゲナダ。高台回転なし。底 づき窪合。黒釉。	白・黒色粒子	2.5Y7/4 浅黄色	良好 瀬戸天目焼製 盤 16世紀中葉
25	試掘	T-3	陶器	高台皿	口縁部 から 底部	細片	(10.5)	-	<1.7	体部は膨らむをもち、口縫 部が大きくなつる。	白色粒子・ 黑色粒子	2.5Y7/4 浅黄色	良好 瀬戸天目焼製 盤

3-5 時代不明のピット

ピットは調査区内に126基が満遍なく分布している。前述の通り、規則的な配置などは確認できなかったうえ、遺物が出土しているピットも9基と少なく、基本的に時代は不明だが、覆土の状況から中世以降のピットが大半を占めると考えられる。ここでは、一部のピットの断面図（第22～25図、第8表）にて法量を提示するに留める。（林）

(林)



1号ビット

1 10Y3/3 嘴褐色土

頭褐色土とローム小ブロッカを少量含む。縫りふつう、粘性ふつう。

ローム粒、ローム小ブロッカを多量に含む。やや縮りあり。やや粘性あり。

2 10Y3/4 嘴褐色土

ローム粒を多量に含む。やや縮りあり。やや粘性あり。

91号ビット

1 10Y3/4 嘴褐色土

風化したローム土主体。

縫りふつう、粘性ふつう。

ローム粒、ローム小ブロッカを多量に含む。や

2 10Y3/2 嘴褐色土

ローム粒を多量に含む。縫

りふつう、粘性ふつう。

3 10Y3/4 嘴褐色土

ローム粒を多量に含む。縫

りふつう、粘性ふつう。

4 10Y3/2 嘴褐色土

ローム粒を少量含む。縫

りふつう、粘性ふつう。



2号ビット

1 10Y3/3 嘴褐色土

ローム小ブロッカを中量含む。縫りふつう、粘性

ふつう。

2 10Y3/3 嘴褐色土

ローム小ブロッカとロー

ム粒を多量含む。縫りふ

つう、粘性ふつう。

107号ビット

1 10Y3/4 嘴褐色土

ローム小ブロッカを多量

に含む。縫りふつう。粘

性ふつう。

2 10Y3/3 にぶい黄褐色土

頭褐色土とローム小ブ

ロッカを多量含む。縫

りふつう、粘性ふつう。

3 10Y3/4 嘴褐色土

ローム粒を多量に含む。や

や縮りあり。やや粘性

あり。

7号ビット

1 10Y3/4 嘴褐色土

ローム粒を中量含む。縫

りふつう、粘性ふつう。

ローム粒を少量含む。縫

りふつう、粘性ふつう。

ローム粒を微量含む。縫

りふつう、粘性ふつう。

風化してローム土を多量

に含む。やや縮りあり。

粘性あり。

5 10Y3/4 嘴褐色土

風化したローム土を中量

に含む。やや縮りあり。粘

性あり。

ローム小ブロッカを中量

に含む。やや縮りあり。粘

性あり。

6 10Y3/4 嘴褐色土

風化したローム土を上部

にローム小ブロッカを多量

に含む。やや縮りあり。

ローム土を主体とする。

縫りあり。粘性あり。

ローム土を主体とする。

縫りあり。粘性あり。

2号ビット

1 10Y3/4 嘴褐色土

ローム土を少量含む。縫

りふつう。

2 10Y3/4 嘴褐色土

ローム小ブロッカを主体

とする。

小量の縫りあり。

3 10Y3/3 嘴褐色土

ローム土を中量含む。やや縮

りあり。

4 10Y3/4 嘴褐色土

風化してローム土を多量

に含む。やや縮りあり。

粘性あり。

29号ビット

1 10Y3/4 嘴褐色土

ローム土を少量含む。縫

りふつう。

2 10Y3/4 嘴褐色土

ローム小ブロッカを主体

とする。

小量の縫りあり。

3 10Y3/3 嘴褐色土

ローム土を中量含む。やや縮

りあり。

4 10Y3/4 嘴褐色土

風化してローム土を多量

に含む。やや縮りあり。

粘性あり。

24号ビット

1 10Y3/4 嘴褐色土

ローム粒を多量に含む。

やや縮りあり。粘性あり。

119号ビット

1 10Y3/4 嘴褐色土

ローム粒を多量に含む。

やや縮りあり。粘性あり。

2 10Y3/4 嘴褐色土

ローム粒を中量含む。縫

りふつう。

3 10Y3/3 嘴褐色土

ローム粒を中量含む。縫

りふつう。

4 10Y3/2 嘴褐色土

ローム粒を中量含む。縫

りふつう。

26号ビット

1 10Y3/2/3 嘴褐色土

粘土ブロッカを少量含む。縫

りふつう。

2 10Y3/2/3 嘴褐色土

粘土ブロッカを少量含む。縫

りあり。

3 10Y3/4 嘴褐色土

ローム粒を少量含む。縫

りふつう。

4 10Y3/2 嘴褐色土

ローム粒を少量含む。縫

りふつう。

5 10Y3/3 嘴褐色土

ローム粒を少量含む。縫

りふつう。

29号ビット

1 10Y3/4 嘴褐色土

ローム土を少量含む。縫

りふつう。

2 10Y3/4 嘴褐色土

ローム小ブロッカを主体

とする。

小量の縫りあり。

3 10Y3/3 嘴褐色土

ローム土を中量含む。やや縮

りあり。

4 10Y3/4 嘴褐色土

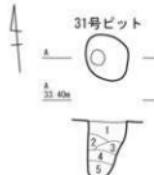
風化してローム土を多量

に含む。やや縮りあり。

粘性あり。

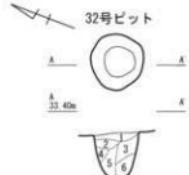
第22図 ピット(1)

- 24 -



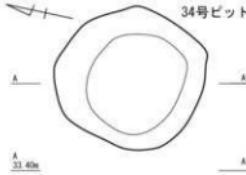
31号ピット

- 1 10Y3/2 黒褐色土 ローム粒を微量に含む。縦りふつ。柔軟性あり。
- 2 10Y3/4 嫡褐色土 瓢箪化したローム土を主体。縦りふつ。柔軟性あり。
- 3 10Y3/4 嫡褐色土 ローム土を多量に含む。縦りふつ。柔軟性あり。
- 4 10Y3/2 黒褐色土 ローム土を微量に含む。縦りなし。粘性なし。
- 5 10Y2/3 黑褐色土 ローム粒を微量に含む。縦りなし。粘性なし。



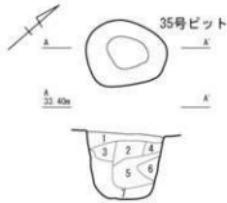
32号ピット

- 1 10Y3/4 嫡褐色土 ローム土を中量含む。縦りふつ。柔軟性あり。
- 2 10Y3/4 嫡褐色土 瓢箪化したローム土をやや多く。縦りふつ。柔軟性なし。
- 3 10Y3/2 黑褐色土 瓢箪化したローム土を少含む。縦りふつ。柔軟性なし。
- 4 10Y3/2 黑褐色土 ローム粒を微量に含む。やや縦りあり。柔軟性あり。
- 5 10Y3/2 黑褐色土 ローム土を少含む。やや縦りあり。柔軟性あり。
- 6 10Y5/6 黃褐色土 ロームブロックを少含む。主体。縦りあり。粘性あり。



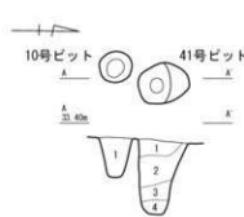
34号ピット

- 1 10Y3/4 黑褐色土 ローム小ブロックを中量含む。縦りふつ。柔軟性なし。
- 2 10Y3/3 嫡褐色土 瓢箪化したローム土を主体。縦りなし。粘性なし。
- 3 10Y4/6 黄褐色土 黃褐色土を少量含む。縦りなし。粘性なし。



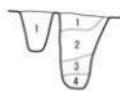
35号ピット

- 1 10Y3/4 嫡褐色土 濃化したローム土を少量含む。縦りふつ。柔軟性あり。
- 2 10Y3/4 嫡褐色土 ローム粒を多量に含む。やや縦りあり。柔軟性あり。
- 3 10Y4/4 嫡褐色土 ローム土を多量に含む。やや縦りあり。柔軟性あり。
- 4 10Y4/4 嫡褐色土 ロームブロックを中量含む。やや縦りあり。柔軟性あり。
- 5 10Y4/3 にぶい黃褐色土 ローム粒を多量に含む。やや縦りなし。柔軟性なし。
- 6 10Y4/4 嫡褐色土 濃化したローム土を主体。縦りあり。柔軟性なし。
- 7 10Y3/2 黑褐色土 ロームブロックを少含む。縦りふつ。柔軟性なし。



10号ピット

- 1 10Y4/4 嫡褐色土 ローム粒を少量含む。縦りあり。粘性あり。
- 41号ピット



41号ピット

- 1 10Y4/4 嫡褐色土 ローム粒を少量含む。やや縦りあり。柔軟性あり。
- 2 10Y4/3 嫡褐色土 ローム土を少量含む。縦りふつ。柔軟性なし。
- 3 10Y4/4 嫡褐色土 瓢箪化したローム土を主体。縦りあり。柔軟性あり。
- 4 10Y4/3 にぶい黃褐色土 濃化したローム土を主体。縦りあり。柔軟性あり。



47号ピット

- 1 10Y3/2 黑褐色土 ローム粒を少量。ロームブロックを少含む。やや縦りあり。柔軟性なし。
- 2 10Y4/6 嫡褐色土 ローム土を主体とする。やや縦りあり。柔軟性なし。



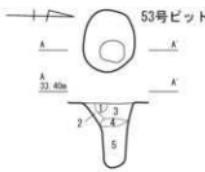
48号ピット

- 1 10Y4/4 嫡褐色土 ローム小ブロック・ローム粒を多量に含む。縦りふつ。柔軟性なし。
- 2 10Y3/4 嫡褐色土 ローム粒を微量含む。縦りふつ。柔軟性なし。
- 3 10Y4/4 嫡褐色土 縦りふつ。柔軟性なし。



49号ピット

- 1 10Y3/4 嫡褐色土 ローム粒を多量に含む。縦りふつ。柔軟性なし。
- 2 10Y3/2 黑褐色土 ローム粒を微量含む。縦りふつ。柔軟性なし。
- 3 10Y4/4 嫡褐色土 ローム粒を微量含む。やや縦りあり。柔軟性なし。
- 4 10Y3/4 嫡褐色土 ロームブロックをやや多く含む。やや縦りあり。柔軟性あり。

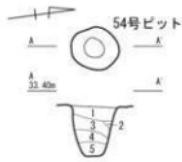


53号ピット

- 1 10Y4/3 嫡褐色土 濃化したローム土。縦りふつ。柔軟性なし。
- 2 10Y4/4 嫡褐色土 ローム土を主体。縦りふつ。柔軟性なし。
- 3 10Y3/3 嫡褐色土 ローム粒を微量含む。縦りふつ。柔軟性なし。
- 4 10Y4/3 にぶい黃褐色土 ロームを多量に含む。縦りあり。柔軟性なし。
- 5 10Y3/2 黑褐色土 ロームブロックを少量含む。縦りふつ。柔軟性なし。

0 (1.40) 1m

第23図 ピット(2)



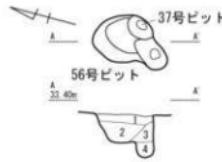
54号ピット

- 1 10Y3/3 嫌褐色土 ローム粒を少量含む。縦りふつ。縦りふつ。
- 2 10Y4/6 黄褐色土 ローム小ブロックを主体とする。やや細粒あり。
- 3 10Y3/4 嫌褐色土 ローム小ブロックを含む。縦りふつ。
- 4 10Y5/4 にぶい黄褐色土 風化したローム土を多量に含む。縦りふつ。
- 5 10Y5/6 黄褐色土 ローム土の層。やや縦りあり。やや粘性あり。



55号ピット

- 1 10Y3/2 黒褐色土 ローム粒を微量に含む。縦りなし。
- 2 10Y3/2 黒褐色土 ローム小ブロックを少量含む。縦りなし。
- 3 10Y3/3 嫌褐色土 ロームを多量に含む。やや細粒あり。
- 4 10Y2/3 黑褐色土 ローム粒を少量含む。縦りふつ。



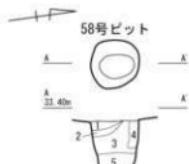
56号ピット

- 1 10Y3/3 嫌褐色土 ローム粒を少量含む。縦りふつ。
- 2 10Y3/2 黒褐色土 ローム小ブロックを少量含む。縦りふつ。
- 3 10Y3/4 嫌褐色土 ロームを多量に含む。縦りふつ。
- 4 10Y1/6 黄褐色土 ローム粒を少量含む。やや縦りあり。やや粘性あり。



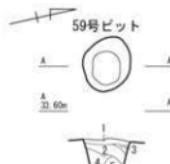
57号ピット

- 1 10Y3/3 嫌褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを少量含む。縦りふつ。
- 2 10Y3/4 嫌褐色土 縦化したロームを多量に含む。縦りふつ。
- 3 10Y4/4 黄褐色土 ローム土を多量に含む。やや縦りあり。やや粘性あり。
- 4 10Y5/6 黄褐色土 ローム土を主体とする。やや縦りあり。やや粘性あり。



58号ピット

- 1 10Y3/3 嫌褐色土 ローム土を少量含む。縦りふつ。粘性ふつ。
- 2 10Y4/4 黄褐色土 ローム粒を多量に含む。縦りふつ。
- 3 10Y4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒を多量に含む。やや縦りあり。やや粘性あり。
- 4 10Y3/6 黄褐色土 ローム土を主体とする。やや縦りあり。ローム粒を少量含む。やや縦りあり。やや粘性あり。
- 5 10Y3/4 嫌褐色土 ローム粒を少量含む。やや縦りあり。やや粘性あり。



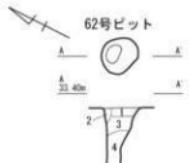
59号ピット

- 1 10Y1/3 にぶい黄褐色土 ローム粒を少量含む。縦りふつ。粘性ふくら。
- 2 10Y3/3 嫌褐色土 ローム粒を少量含む。縦りふつ。粘性ふくら。
- 3 10Y4/6 黄褐色土 ローム粒を少量含む。縦りふつ。
- 4 10Y3/4 黄褐色土 ローム土を多量に含む。やや縦りあり。やや粘性あり。
- 5 10Y3/4 嫌褐色土 ローム粒を多量含む。やや縦りあり。ローム土を主体とする。やや縦りあり。やや粘性あり。



60号ピット

- 1 10Y3/2 黑褐色土 風化したローム小ブロックを含む。縦りふくら。縦りふつ。
- 2 10Y4/4 黄褐色土 ローム土を多量に含む。縦りふくら。粘性ふくら。
- 3 10Y4/4 黄褐色土 ローム土を多量に含む。縦りふくら。粘性ふくら。
- 4 10Y3/3 嫌褐色土 風化したローム土を多量に含む。縦りふくら。粘性ふくら。
- 5 10Y4/4 黄褐色土 ローム土を主体とする。やや縦りあり。



62号ピット

- 1 10Y3/3 嫌褐色土 ローム土を中量含む。縦りなし。
- 2 10Y3/2 嫌褐色土 ローム小ブロックを中量含む。縦りふくら。粘性ふくら。
- 3 10Y3/2 嫌褐色土 ローム粒を少量含む。やや縦りあり。粘性あり。
- 4 10Y3/2 黑褐色土 ローム小ブロックを少量含む。やや縦りあり。粘性あり。

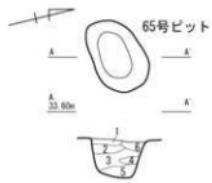


64号ピット

- 1 10Y3/4 嫌褐色土 ローム土を中量含む。縦りふくら。粘性ふくら。
- 2 10Y3/2 黑褐色土 ローム土を多量含む。やや縦りあり。粘性あり。
- 3 10Y3/6 黄褐色土 ローム土を主体とする。やや縦りあり。やや粘性あり。
- 4 10Y1/4 黄褐色土 黑褐色土とローム土を少量含む。やや縦りあり。やや粘性あり。

0 (140) m

第24図 ピット(3)



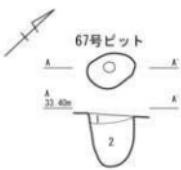
65号ピット

- 1 10Y3/3 棕褐色土 ローム粘を微量含む。繊りふつう、粘性ふつう。
- 2 10Y4/4 黄色土 ローム土をやや多く含む。繊りふつう、粘性ふつう。
- 3 10Y4/3 に似い黄褐色土 ローム粘。ローム土を少含む。繊りふつう、粘性ふつう。
- 4 10Y4/6 黄色土 ローム土ブロックを少量含む。やや繊りあり。やや粘性あり。
- 5 10Y5/6 黄褐色土 ローム土主体とする。やや繊りあり。繊維状の構造あり。
- 6 10Y4/4 黄色土 塗褐色土にローム土を多量に含む。繊りふつう、粘性ふつう。



66号ピット

- 1 10Y3/2 棕褐色土 ローム粘を少量含む。繊りなし、粘性なし。
- 2 10Y5/6 黄褐色土 ローム土主体とする。繊りあり。粘性あり。



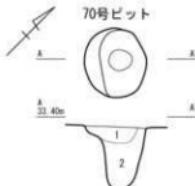
67号ピット

- 1 10Y3/4 塗褐色土 ローム土を少量含む。繊りふつう、粘性ふつう。
- 2 10Y4/4 黄色土 氷化したローム土を多量に含む。繊りふつう、粘性ふつう。



68号ピット

- 1 10Y3/2 棕褐色土 ローム土ブロックを少量含む。繊りふつう、粘性ふつう。
- 2 10Y4/6 黄色土 ローム土主体とする。やや繊りあり。やや粘性あり。
- 3 10Y4/3 棕褐色土 ローム粘を中量含む。繊りふつう、粘性ふつう。
- 4 10Y5/6 黄褐色土 ローム土を主体とする。繊りあり。粘性あり。



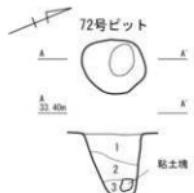
70号ピット

- 1 10Y3/4 黄色土 ローム粘を少量含む。繊りなし、粘性なし。
- 2 10Y4/3 に似い黄褐色土 ローム土を多量に含む。ロームブロックを少量含む。繊りふつう、粘性ふつう。



71号ピット

- 1 10Y4/4 黄色土 氷化したローム土を多量に含む。繊りふつう、粘性ふつう。
- 2 10Y4/6 黄色土 ローム土を主体とする。繊りふつう、粘性ふつう。



72号ピット

- 1 10Y3/2 棕褐色土 ローム土を少量含む。繊りふつう、粘性ふつう。
- 2 10Y4/4 黄色土 氷化したローム土を多量に含む。繊りふつう、粘性ふつう。
- 3 10Y5/3 棕褐色土 一部に粘土を含む。やや繊りあり。やや粘性あり。



73号ピット

- 1 10Y3/2 黑褐色土 ローム粘を微量含む。繊りふつう、粘性ふつう。
- 2 10Y4/4 黄色土 氷化したローム土を主体。やや繊りあり。やや粘性あり。
- 3 10Y5/3 棕褐色土 ローム土を少量含む。やや繊りあり。やや粘性あり。

0 (1:40) 1m

第25図 ピット(4)

第8表 ピット計測表

遺構番号	位置	平面形	規模(cm)		断面形	確認面標高	底部標高	確認面から の深さ(cm)	出土遺物	切り合い関係	備考
			長径	短径							
SP01	I-3	楕円形	45以上	45	筒状	329	325	40	なし	SP91, SD01に 後続する	
SP02	J-2	隅丸方形	47	-	筒状	328	324	32	なし	SP107に後続 する	
SP03	I-3	円形	32	-	筒状	328	325	20	なし		
SP04	I-3	不整円形	30	-	筒状	329	325	32		土師質土器土鍋 1点 時代不明鉤1点	中世以降
SP05	I-3	不整円形	67	66	筒状	329	324	41	なし		
SP06	D-2	円形	46	-	筒状	334	332	14	なし		
SP07	I-3	楕円形	65	48	筒状	330	326	33		土師質土器土鍋 1点	中世以降
SP08	I-1	円形	35	-	筒状	328	324	43	なし		
SP09	I-1	楕円形	32	36	筒状	328	324	38	なし		
SP10	D-1	円形	27	-	筒状	333	330	34	なし		
SP11	J-1	円形	28	-	筒状	329	326	16	なし		
SP12	I-1	楕円形	45	35	筒状	328	324	37	なし		
SP13	H-2	楕円形	55	45	筒状	330	324	59	なし		
SP14	D-2	楕円形	43	31	筒状	334	331	25	カワラケ1点		中世以降
SP15	H-2	楕円形	66	60	筒状	330	327	32	なし		
SP16	I-3	隅丸方形	43	39	筒状	330	326	40	なし		
SP17	H-3	円形	49	-	筒状	330	326	42	なし		
SP18	D-2	楕円形	42	32	筒状	334	333	10	なし		
SP19	H-2	不整楕円形	75	45	筒状	330	326	44	なし		
SP20	H-3	楕円形	200	103	筒状	332	325	70	なし		
SP21	G-3	円形	33	-	筒状	332	329	35	なし		
SP22	D-2	円形	34	-	筒状	333	331	15	なし		
SP23	G-2	楕円形	28	24	筒状	331	328	38	なし		
SP24	F-2	円形	31	-	筒状	331	327	40	なし		
SP25	B-1	楕円形	42	38	筒状	333	332	16	なし		
SP26	F-2	楕円形	70	58	筒状	332	327	52	なし		
SP27	F-2	長楕円形	100	55	筒状	332	327	46	なし		
SP28	G-1	円形	30	-	筒状	330	327	36	なし		
SP29	F-1	楕円形	60	45	筒状	331	326	49	なし		
SP30	F-1	楕円形	40	33	筒状	331	328	29	なし		
SP31	E-2	楕円形	41	35	筒状	333	330	29	なし		
SP32	E-2	円形	45	-	筒状	333	329	35	なし		
SP33	F-1	円形	24	-	筒状	332	330	16	なし		
SP34	E-1	円形	128	-	筒状	332	327	52	なし		
SP35	E-1	楕円形	67	55	筒状	332	327	46	なし		
SP36	E-1	不整楕円形	77	50	筒状	332	329	26	なし		
SP37	C-1	楕円形	22	15	筒状	333	328	48	なし	SP56に先行する	
SP38	E-2	楕円形	30	24	筒状	333	332	12	なし		
SP39	B-1	不整楕円形	70	60	筒状	334	332	13	なし		
SP40	D-1	楕円形	37	31	筒状	333	329	39	なし		
SP41	D-1	楕円形	42	32	筒状	333	328	43	なし		
SP42	D-2	不整円形	35	-	筒状	332	328	47	なし		
SP43	D-1	略楕円形	40以上	40	筒状	332	329	37	なし		
SP44	D-1	楕円形	32	35	筒状	333	330	28	なし		
SP45	D-1	楕円形	40	30	筒状	333	330	31	なし		
SP46	D-1	円形	36	-	筒状	333	329	41	なし		
SP47	D-1	楕円形	61	45	筒状	333	331	15	なし		
SP48	D-2	楕円形	52	45	筒状	333	328	48	鉄滓1点		
SP49	D-2	楕円形	40	32	筒状	333	329	43	なし		
SP50	C-2	楕円形	82	56	筒状	334	332	17	なし		
SP51	C-2	円形	35	-	筒状	334	331	31	なし		
SP52	C-2	楕円形	30	25	筒状	334	331	33	なし		
SP53	C-2	円形	50	-	筒状	334	327	69		土師質土器土鍋 1点	中世以降
SP54	C-1	楕円形	40	35	筒状	333	329	46	なし		
SP55	C-1	楕円形	62	49	筒状	333	329	37	なし		
SP56	C-1	不整楕円形	63	42	筒状	333	331	24	なし	SP37に後続する	
SP57	C-1	不整楕円形	60	34	筒状	333	331	25	なし		

遺構番号	位置	平面形	規模(cm)		断面形	確認面標高	底部標高	確認面から の深さ(cm)	出土遺物	切り合い関係	備考
			長径	短径							
SP58	C-1	椭円形	47	39	簡状	33.3	328	57	なし		
SP59	C-2	円形	46	-	簡状	33.3	330	30	なし		
SP60	B-2	円形	47	-	簡状	33.3	331	19	なし		
SP61	B-1	椭円形	22	13	簡状	33.3	330	30	なし		
SP62	C-1	円形	31	-	簡状	33.3	328	55	なし		
SP63	C-1	不整椭円	34以上	33	簡状	33.3	331	18	なし	7号土坑に後続する	
SP64	B-1	椭円形	51	45	簡状	33.4	331	25	なし		
SP65	B-2	椭円形	64	43	簡状	33.3	331	25	なし		
SP66	A-2	椭円形	50	32	簡状	33.3	332	16	なし		
SP67	F-2	椭円形	40	28	簡状	33.1	328	34	なし		
SP68	F-2	椭円形	47	40	簡状	33.1	329	22	なし		
SP69	F-3	椭円形	55	45	簡状	33.3	330	32	なし		
SP70	D-2	円形	61	-	簡状	33.4	328	55	鉄漆1点		
SP71	D-2	椭円形	76	60	簡状	33.4	332	20	なし		
SP72	E-2	椭円形	54	45	簡状	33.3	327	54	なし		
SP73	E-2	円形	35	-	簡状	33.3	329	39	なし		
SP74	D-2	円形	31	-	簡状	33.4	329	43	なし		
SP75	D-2	不整椭円形	61	42	簡状	33.4	326	76	なし		
SP76	F-2	椭円形	48	31	簡状	33.3	326	70	なし		
SP77	E-1	不整椭円形	33	25	簡状	33.3	328	52	なし		
SP78	E-2	椭円形	43	30	簡状	33.3	329	43	なし		
SP79	B-1	椭円形	25	21	簡状	33.3	330	33	なし		
SP80	B-2	円形	27	-	簡状	33.4	328	58	なし		
SP81	D-2	円形	25	-	簡状	33.4	328	57	なし	9号土坑に先行する	
SP82	B-2	椭円形	36	30	簡状	33.3	326	70	なし		
SP83	G-1	円形	35	-	簡状	32.9	325	40	なし		
SP84	I-1	不整椭円形	64	43	簡状	32.8	325	34	なし		
SP85	H-2	円形	23	-	簡状	33.1	327	41	なし		
SP86	G-3	不整円形	30	-	簡状	33.1	328	29	なし		
SP87	H-3	円形	27	-	簡状	33.1	329	27	なし		
SP88	H-3	椭円形	45	36	簡状	33.0	326	39	なし		
SP89	H-3	椭円形	31	26	簡状	33.0	328	19	なし		
SP90	I-3	椭円形	68	55	簡状	33.1	323	77	なし	1号溝に後続する	
SP91	I-3	円形	53	-	簡状	32.9	322	78	なし	SP01に先行する	
SP92	K-3	隅丸方形	84	-	簡状	32.9	327	24	土師器甕1点 カワラケ2点	1号溝に後続する	中世以降
SP93	I-3	円形	105	-	簡状	33.1	325	61	埴輪甕1点		中世以降
SP94	H-3	椭円形	50	42	簡状	33.1	326	46	なし		
SP95	H-3	略隅丸方形	52	45	簡状	33.0	325	49	なし		
SP96	H-3	略隅丸方形	80	65	簡状	33.1	328	27	土師質土器鍋 1点		中世以降
SP97	H-2	椭円形	27	17	簡状	32.9	321	89	なし	1号溝に先行する	
SP98	H-2	方形	35	28	簡状	33.0	325	57	なし	1号溝に後続する	
SP99	I-3	不整椭円形	38	22	簡状	33.1	324	73	なし		
SP100	G-3	不整円形	45	38	簡状	33.1	329	17	なし		
SP101	G-2	円形	30	-	簡状	33.1	328	31	なし		
SP102	F-2	椭円形	33	27	簡状	33.1	325	66	なし		
SP103	I-3	円形	55	-	簡状	33.0	325	53	なし		
SP104	A-2	不整椭円形	58	32	簡状	33.3	330	30	なし		
SP105	A-2	不整椭円形	52	23	簡状	33.3	330	21	なし		
SP106	J-3	不整椭円形	45	36	簡状	32.9	327	15	なし		
SP107	J-2	不整椭円形	40以上	46	簡状	32.8	323	51	なし	SP02に先行する	
SP108	J-2	不整椭円形	70	50	簡状	32.8	322	65	なし		
SP109	J-2	不整椭円形	26以上	25	簡状	32.8	326	20	なし		
SP110	J-2	椭円形	18以上	25	簡状	32.8	327	13	なし		
SP111	I-1	円形	28	-	簡状	32.9	327	15	なし		
SP112	I-2	椭円形	30	25	簡状	32.8	327	12	なし		
SP113	I-3	椭円形	53	46	簡状	33.1	329	20	なし		
SP114	E-2	椭円形	39	26	簡状	33.3	331	20	なし		
SP115	H-2	円形	35	-	簡状	33.0	329	15	なし		

遺構番号	位置	平面形	規模(cm)		断面形	確認面標高	底部標高	確認面から の深さ(cm)	出土遺物	切り合い関係	備考
			長径	短径							
SP116	G-3	梢円形	62	49	簡状	33.1	329	22	なし		
SP117	G-3	梢円形	35	30	簡状	33.2	329	27	なし		
SP118	F-2	不整梢円形	50	40	簡状	33.1	329	18	なし		
SP119	F-2	不整梢円形	92	55	簡状	33.1	328	30	なし		
SP120	F-1	不整梢円形	70	52	簡状	33.2	329	29	なし		
SP121	F-1	不整内形	50	-	簡状	33.2	326	62	なし		
SP122	F-1	円形	49	-	簡状	33.1	328	35	なし		
SP123	F-2	梢円形	98	34	簡状	33.2	330	21	なし	2号構に先行する	
SP124	D-1	梢円形	40	33	簡状	33.3	330	30	なし		
SP125	E-2	梢円形	41	35	簡状	33.3	330	28	なし		
SP126	E-2	梢円形	35	30	簡状	33.3	329	39	なし		

第9表 出土遺物計測表

出土地点	SD01			SD02			SK01			SK06			SPO4			SPO7			SP14			SP48			SP53				
	点数	個体数	重量(g)	点数	個体数	重量(g)	点数	個体数	重量(g)	点数	個体数	重量(g)	点数	個体数	重量(g)	点数	個体数	重量(g)	点数	個体数	重量(g)	点数	個体数	重量(g)	点数	個体数	重量(g)		
出土遺物																													
縄文土器	加曾利B 深鉢	1	1	24.3																									
縄文時代	石器	磨石																											
	小計	1	1	24.3																									
	小計	1	1	24.3																									
縄文時代小計																													
古墳・奈良・奈良・平安時代	环																												
	環	1	1	52.2	3	3	126.6																						
	不明																												
	小計	1	1	52.2	5	5	133.3																						
	小計	1	1	56.0																									
	土師器	高台付环																											
	小計	1	1	56.0																									
古墳・奈良・奈良・平安時代小計	カワラケ	1	1	43.0	1	1	40																						
	カワラケ	1	1	43.0																									
	要																												
	小計	1	1	43.0																									
	土師質土器	要																											
	小計	2	2	108.2	5	5	133.3																						
	中世以降	土師質土器	要																										
	小計	3	3	108.4	3	3	167	1	1	46.5	3	3	95.2	1	1	11.7	3	1	15.7	1	1	10.3							
	中世以降	陶器	天目茶碗																										
	小計	3	3	108.4	3	3	167	1	1	46.5	3	3	95.2	1	1	11.7	3	1	15.7	1	1	10.3							
	中世以降	炻器	要																										
	小計	3	3	108.4	3	3	167	1	1	46.5	3	3	95.2	1	1	11.7	3	1	15.7	1	1	10.3							
	時代不明	食器	要																										
	時代不明	石製品	砾石																										
	時代不明	機成土塊																											
	時代不明	鐵漆																											
	時代不明	小計																											
	時代不明	小計																											
	時代不明	鉢計	6	6	240.9	8	8	150.0	1	1	46.5	6	6	310.0	2	2	21.5	1	1	15.7	1	1	10.3	1	1	14	1	1	17.0

出土地点		SP70		SP92		SP93		SP96		表土		総計			
出土遺物		点数	個体数	重量(g)	個体数	重量(g)	点数	個体数	重量(g)	点数	個体数	重量(g)	点数	個体数	重量(g)
縄文時代	縄文土器	加曾利B 深鉢								1	1	24.3			
	石器	磨石								1	1	1.6	2	2	5.2
		調片 チャート								1	1	1.6	3	3	29.5
		小計								1	1	1.6	3	3	29.5
		縄文時代小計													
古墳・奈良・平安時代		环								1	1	4.0	3	3	10.7
		垂								5	3	87.8	9	7	266.6
		鉢								1	1	17.1	1	1	17.1
		不明								1	1	5.3	1	1	5.3
		小計								8	6	114.2	14	12	299.7
		环								1	1	4.7	2	2	15.9
		高台付环								1	1	15.5	1	1	15.5
		垂								3	3	113.9	5	5	221.5
		鉢								5	5	134.1	8	8	252.9
		小計								13	11	248.3	22	20	552.6
古墳・奈良・平安時代小計		カワラケ								11	7	143.0	18	14	212.8
		垂											3	3	101.7
		土師質土器								4	3	214.2	4	3	214.2
		鉢											2	2	80.6
		土鍋								1	1	16.9	15	7	333.6
		天日茶碗								1	1	33.5	1	1	33.5
		垂								2	1	18.4	2	1	18.4
		佑器											1	1	109.1
		小計								2	2	63.0	1	1	109.1
		中世以降小計								2	2	63.0	1	1	109.1
		鉢								1	1	44.7	1	1	44.7
		石製品											1	1	21.0
		成城土塊											2	2	54.9
		鉄滓											4	4	60.7
		小計								3	3	99.6	7	7	136.2
時代不明		時代不明小計								3	3	99.6	7	7	136.2
		総計								1	1	4.4	3	3	57.9
										1	1	109.1	1	1	169.4
										46	32	1092.2	79	65	1914.8

出土地点		T-3		T-9		T-12		T-14		T-15		T-18		T-21		T-22		T-23		
出土遺物		点数	個体数	点数	個体数	点数	個体数	点数	個体数	点数	個体数	点数	個体数	点数	個体数	点数	個体数	点数		
縄文時代	縄文土器	加曾利B 深鉢				1	1	21.8												
	石器	磨石				1	1	97.0												
		調片 チャート				1	1	12.1		2	2	118.8								
		縄文時代小計				1	1	12.1		2	2	118.8								
古墳・奈良・平安時代		环																		
		垂																		
		鉢																		
		不明																		
		小計																		
		土師器																		
		高台付环																		
		垂																		
		小計																		
古墳・奈良・平安時代小計		カワラケ				1	1	1.4		4	2	61.7								
		垂																		
		土師質土器																		
		鉢																		
		小計																		
		土鍋																		
		天日茶碗																		
		垂																		
		佑器																		
		小計				3	3	33.4		5	3	65.0	1	1	4.4	1	1	15.5		
		中世以降小計				3	3	33.4		5	3	65.0	1	1	4.4	1	1	15.5		
		鉢																		
		石製品																		
		成城土塊																		
		鉄滓																		
		小計																		
時代不明		時代不明小計																		
		総計				4	4	455.1	1	1	1.9	2	2	118.8	5	4	68.3	1	1	15.5
										1	1	4.4	1	1	15.5	1	1	33.0		
										1	1	166.6	1	1	34.4					

出土地点		試底面積			試掘統計			全体統計			
出土遺物		点数	個体数	重量(g)	点数	個体数	重量(g)	点数	個体数	重量(g)	
縄文時代	縄文土器	加曾利B 深鉢			1	1	21.8	2	2	46.1	
		深鉢			1	1	12.1	1	1	12.1	
	石器	磨石			1	1	97.0	1	1	97.0	
		酒器	チャート					2	2	5.2	
	小計				3	3	130.9	6	6	160.4	
	縄文時代小計				3	3	130.9	6	6	160.4	
古墳・奈良・平安時代		环						3	3	30.7	
	衛				1	1	10.5	2	2	43.5	
	鏡							1	1	17.1	
	不明				1	1	11.1	2	2	6.1	
	小計	1	1	105.3	3	3	44.6	17	15	344.3	
	环				1	1	9.0	1	1	9.0	
	高台付环							1	1	15.5	
	土師器							1	1	24.9	
	要							6	6	224.8	
	小計	1	1	9.0	2	2	12.3	10	10	264.5	
	古墳・奈良・平安時代小計	2	2	195.5	5	5	56.8	27	25	608.8	
中世以降	カワラケ	2	1	40.7	7	4	67.1	25	18	279.9	
	甕				2	2	51.0	5	5	152.7	
	土師質土器	鉢						4	1	214.2	
		盤鉢			1	1	3.1	3	3	83.9	
		土鍋			2	2	32.5	22	14	456.6	
	陶器	天目茶碗	5	1	266.2	6	2	261.7	7	3	595.2
		皿			1	1	39	3	2	22.3	
	箱器	甕						1	1	109.1	
	小計	7	2	250.2	19	12	419.5	66	47	1616.0	
	中世以降小計	7	2	250.2	19	12	419.5	66	47	1616.0	
時代不明	鉄製品	釘						1	1	9.8	
	石製品	硯石						1	1	44.7	
	焼成土塊							1	1	21.0	
	鉄滓				1	1	1.9	5	5	62.6	
	小計				1	1	1.9	8	8	138.1	
	時代不明小計				1	1	1.9	8	8	138.1	
	総計	9	4	269.7	28	21	609.2	107	86	2523.3	

第4章 総括

山崎塙海道遺跡は石岡市の東端に位置し、園部川より南側へ1km、標高33.4～33.8m程の台地上に立地している。今回の調査地点は遺跡の北側にある。また、南側約8kmには古代常陸國の国衙や國分寺、國分尼寺が存在しており、古くから大きく発展していたと考えられる地域である。

今回の発掘調査では約773m²の調査区から溝3条、土坑12基、ピット126基が検出されたが、木痕による擾乱が随所に確認され、遺構の残存状況は悪かった。しかし、1・2号溝が検出されたことより、16世紀末頃に何らかの区画された区域が存在したことが確認できたのは大きな成果である。

遺物は合計で107点と少なく、大多数は細片であったが1・2号溝と同時期のカワラケや天目茶碗などが出土している。以下より時代順に若干の考察をしていく。その際、遺構や遺物の詳細については第3章で確認していただきたい。

1. 縄文時代

土坑が2基検出されている。二つの土坑から遺物の出土は無く、覆土の状況から当該期と判断している。このうち8号土坑はその断面形から竪穴の可能性が高い。遺物は表土を中心に土器4点、磨石と思われる小片が1点、チャート製の剥片が2点出土している。土器は縄文時代後期後葉加曾利B式期の口縁部および後期の胴部片以外は細片で時代は不明である。遺構や遺物の状況から、本調査地点の当該期は狩猟の場であった可能性が高い。

2. 奈良・平安時代

当該期の遺構は検出されていないが、遺物は須恵器の壊が3点、壺が11点、鉢が1点、器種不明が2点。土師器は壊が3点、高台付壊が1点、甕が6点出土している。出土遺構は中世の溝である1・2号溝や中世以降の土坑である6号土坑、表土などからの出土である。時代的には8世紀前葉に位置する器高が浅い壊の他、概ね9世紀後半から10世紀前葉に収まる。

3. 中世以降

本調査地点を中心となる時代である。当該期の遺構として、溝3条と土坑10基、道路状遺構1条、炉跡1基が検出されている。遺物から時代が判明した遺構は1号溝のみで、他の遺構は覆土の状況や切り合い関係、平面形から判断している。遺物は当該期に当たることは66点と全体の60%程度になり、器種もカワラケや土師質土器の土鍋や擂鉢、陶器の皿、天目茶碗、炻器の壺など多種にわたる。出土遺構も1号溝の他、1・6号土坑やピットと他の時期に比べ、遺構からの出土も目立つ。しかし、覆土や平面形から判断して遺構と伴う遺物は少なく、1号溝出土の遺物が目立つ程度である。以下で各遺構について言及していくが、1・2号溝については後半に別項を立てて考察していく。

土坑は10基検出されているが、土層の締りや包含土、平面形から全て所謂芋穴と言われる貯蔵用の土坑であろう。時代は1号や6号土坑から中世の遺物が出土していることから中世以降の所産と考えられる。遺物の出土していない土坑も土層からはほぼ同時期の所産と考えられる。また、6号や12号土坑の上面に焼土を含んだ土が堆積していたが、この遺構の埋没後上面で野焼きなどを行った痕跡と判断できる。

炉跡は1基検出されているが、焼土を含んだ土層の締りやその下位の土層の状況から、6号や12号土坑

の上面と同様にこの位置で野焼きなどを行った痕跡であると考えられる。

3号溝及び1号道路状遺構はその位置から同時期の遺構と考えられる。2号溝の中層付近で硬化面が検出されていること、土層断面の状況、特に道路状遺構とほぼ同一レベルで2号溝の埋没状況が異なる点などから、2号溝が中層付近まで埋没した後、道路状遺構を造り、埋没中の2号溝を区画溝などに再利用して、最終的に人為的に埋めた状況であろう。また、この道路状遺構の西方延長上で3号溝が途切れてしまう。このことから、この2つの遺構は多少の時期差はあるが細い道路とそれから伸びる区画溝と考えることが妥当であろう。しかし、どちらの遺構からも遺物は出土していないので、詳細な時期は判断できなかったが、2号溝に先行する1号溝から16世紀末から17世紀前葉のカワラケが出土していることから17世紀以降である近世の所産である可能性が高い。

遺物は表土など遺構に伴わない状況で、1号溝が埋没中である16世紀末から17世紀前葉に位置するカワラケ、天目茶碗、瀬戸美濃系台付皿などが出土している。また、土師質土器の土鍋は器高の確認できるものが出土していないためはつきりしないが、状況からカワラケなどと同時期に収まると考えられる。

4. 時代不明

ここは主にピットを言及していく。調査区全体から126基のピットが確認されている。配列に規則性はなく、調査区全体に満遍なく分布している。これらのピットは木根のものも混在していると考えられるが、掘り込みの確認できたものはピットとして判断している。遺物の出土しているピットは9基で土師質土器など中世の遺物が主体である。しかし、数量的には18点と少なく、ほぼ細片のため、明確な時代は確認できなかった。3号溝や1号道路状遺構などから近世のピットが多く存在していると考えるが、推測の域をでない。

5. 1・2号溝

調査区東側から中央部に位置し、北側で1号と2号溝が直交して合流する。切り合い関係は1号溝が2号溝に先行する。1号溝は上面幅約1.8～2.1m、底面幅約25～45cm、深さ72～141cm、2号溝は上面幅約2.1～2.7m、底面幅約25～83cm、深さ約76～101cmを測る。やや2号溝のほうが規模が大きい。また、当初1号溝が区画域の南側でその後2号溝を掘り、区画域を拡張している。

この溝を区画する区画域内の性格だが、天目茶碗やカワラケの出土からある程度の地位や財力を持つものがこの溝を管理していたと思われ、溝の埋没時期である16世紀末から17世紀前葉は文禄4年（1595年）の佐竹領内の配置換えや慶長7年（1602年）の佐竹氏出羽転封など激動の時期にあたること、また、後述する中継地点としての利用価値が薄れたことなどから、小規模な居館などがこの時期に統廃された可能性は高い。また、旧八郷町城において、中世の居館といわれる遺跡は26ヶ所あり、柿岡城や片野城を除くその多くが近世になると消滅することもこの想定と矛盾はない。これらのことより、この2本の溝は小規模な居館などの区画溝と考えたい。その区画域だが、現状では調査区の北および東側に窪地があり、1号溝の東側や2号溝の北側はその窪地に向かい、その窪地を利用して区画していたと想定される。調査区の大半は区画域外に当るため、区画内の構造や建物配置などは確認できなかった。

この居館は通常台地の縁辺部に多く立地するが、台地上奥まった位置に立地している。このことは、田村雅樹氏が、天文年間（1532年～1555年）まで、小田氏が本遺跡東方の小川城まで勢力を伸ばし、そのルートとして本遺跡の西方である八郷盆地から羽鳥館を通り小川城に至るルートの存在を指摘し（田村2013）、その後小杉山大輔氏が佐竹氏が小川城などに侵攻するルートとして使用したことと田村氏の指摘を発展させ

ていることで（小杉山 2013）、そのルートの中継地であることが必要な立地の条件であったためと考えられる。逆にこの地域が安定して侵攻などの中継地である価値が薄れた時期であり、配置換えや国替えなどが行われた 16 世紀末から 17 世紀前葉という時期にこの城館が廃絶したことは両氏の説を裏付ける。

この城館の廃絶後前述した近世に道路状遺構が走り、その時期の区画溝として利用され埋められたと考えられる。

このように 16 世紀末から 17 世紀前葉という時期に廃絶された城館跡が検出されたことや、そこから小田氏や佐竹氏における勢力圏の伸縮やその城館の廃絶理由も推定できたことは大きな成果となった。しかし、この城館の範囲やその内部施設など不明な点は多く、以後の調査を注視していきたい。（林）

参考・引用文献

- 浅井哲也 1991「茨城県内における奈良・平安時代の土器（I）」「研究ノート 1号」財團法人茨城県教育財団
浅井哲也 1992「茨城県内における奈良・平安時代の土器（II）」「研究ノート 2号」財團法人茨城県教育財団
茨城県考古学協会 2011「茨城中世考古学の最前線～編年と基準資料～ 第1分冊」茨城県考古学協会シンポジウム資料編
小杉山大輔・大橋生・林邦雄他 2006「片野城跡－NTT ドコモ移動無線基地局建設に伴う発掘調査－」株式会社東京航業
研究所
小杉山大輔 2013「野田館跡にみる中世城館建築方法の一例」「茨城県考古学協会誌 第25号」茨城県考古学協会
小杉山大輔・曾根俊雄 2013「石岡市内遺跡発掘調査報告書第8集」
曾根俊雄・福山後彰・秋山真好・佐藤 俊 2012「東成井山ノ神遺跡－県営畠地帯総合整備事業（東成井西部地区）に伴う発
掘調査－」石岡市教育委員会 株式会社ノガミ
田村雅樹 2013「宮田館跡」「茨城県教育財团文化財調査報告書 第374集」財團法人茨城県教育財団
渡邊久生・曾根俊雄・小林克也 2012「下ノ宮遺跡－県営畠地帯総合整備事業（三村地区）に伴う発掘調査2」石岡市教育
委員会 株式会社東京航業研究所

写 真 図 版



調査区全景（東から）



1・2号溝全景垂直写真

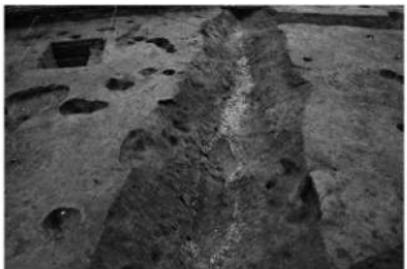
図版2



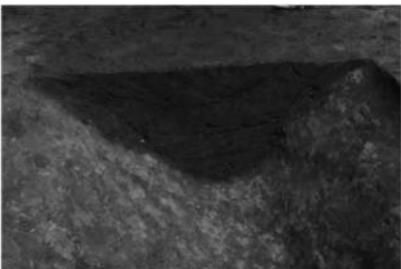
調査区完堀及びピット分布状況（西から）



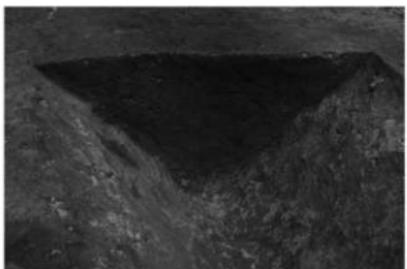
1号溝完堀状況（東から）



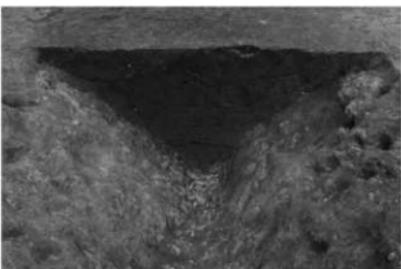
2号溝完堀状況（南から）



1号溝土層断面A～A'（南から）



1号溝土層断面B～B'（南から）



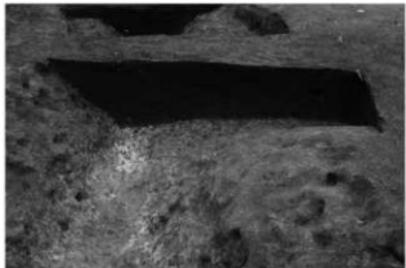
1号溝土層断面C～C'（南から）



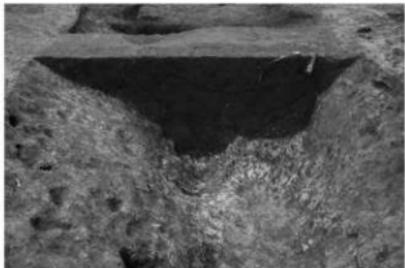
1号溝土層断面D～D'（南から）



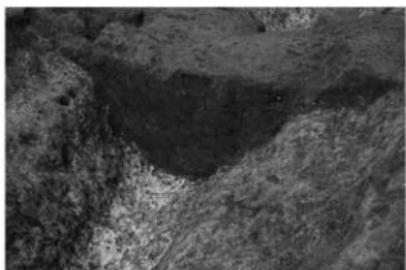
2号溝土層断面A～A'（南から）



2号溝土層断面B～B'（南から）



2号溝土層断面C～C'（南から）



2号溝土層断面D～D'（南から）



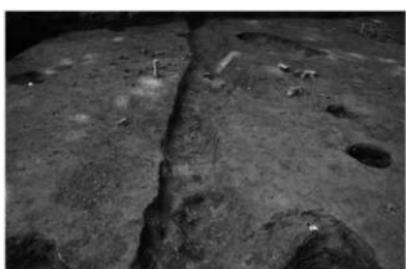
2号溝土層断面E～E'（南から）



2号溝土層断面F～F'（南から）



2号溝土層断面G～G'（北から）

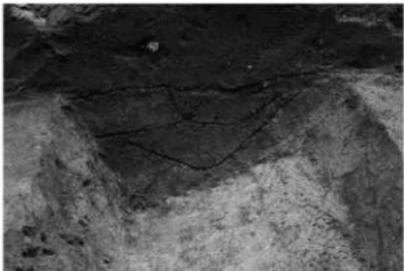


3号溝完堀状況（北から）

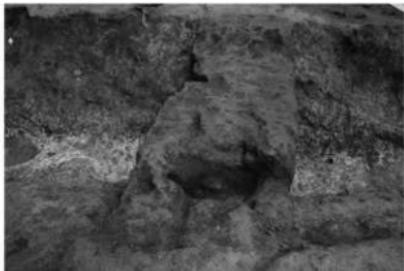


3号溝土層断面A～A'（南から）

図版4



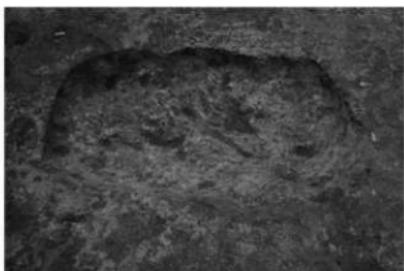
3号溝土層断面B～B'（北から）



1号道路状遺構検出状況（東から）



1号屋外炉完堀状況（東から）



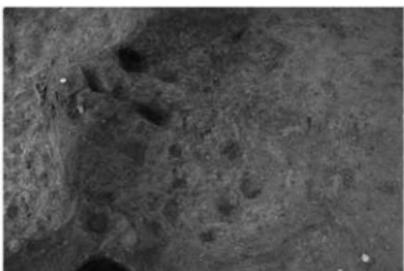
1号土坑完堀状況（東から）



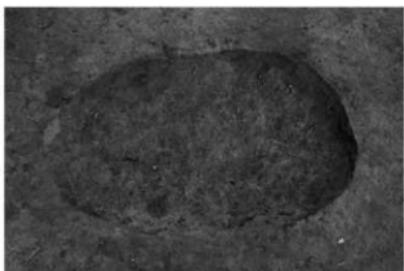
2号土坑完堀状況（東から）



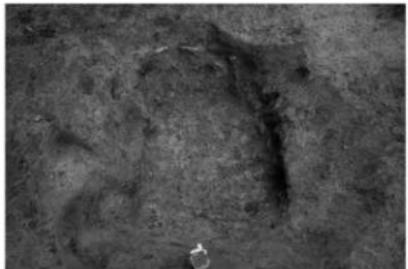
3号土坑完堀状況（東から）



4号土坑完堀状況（南から）



5号土坑完堀状況（東から）



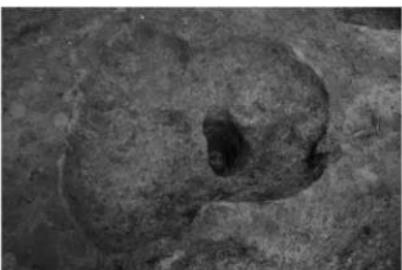
6号土坑完堀状況（西から）



7号土坑土層断面及び完堀状況（南から）



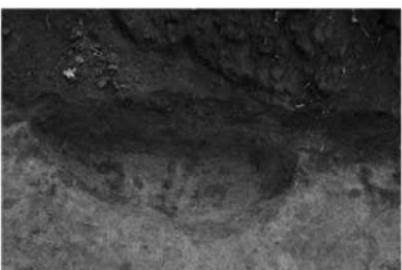
8号土坑完堀状況（東から）



9号土坑完堀状況（東から）



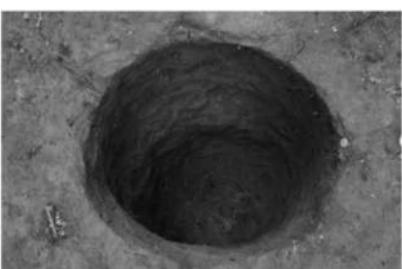
10号土坑完堀状況（南から）



11号土坑（北から）

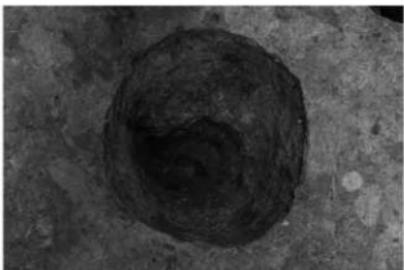


12号土坑（東から）

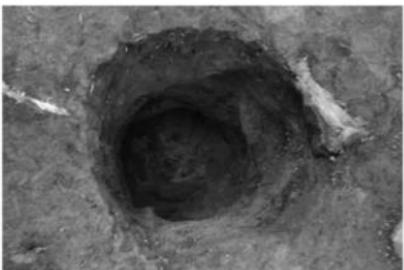


49号ビット完堀状況（東から）

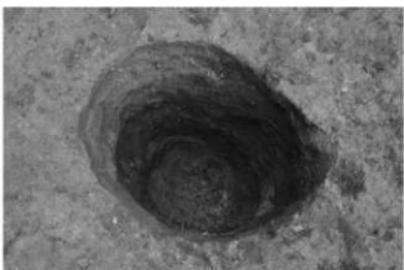
図版6



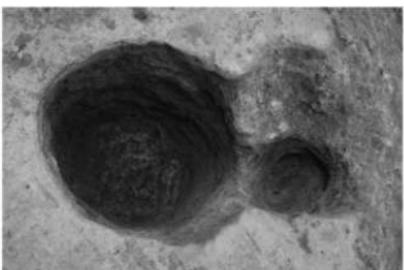
70号ピット完堀状況（東から）



73号ピット完堀状況（南から）



85号ピット完堀状況（南から）



88号ピット完堀状況（南から）



89号ピット完堀状況（北から）



1号テストピット基本土層①（東から）



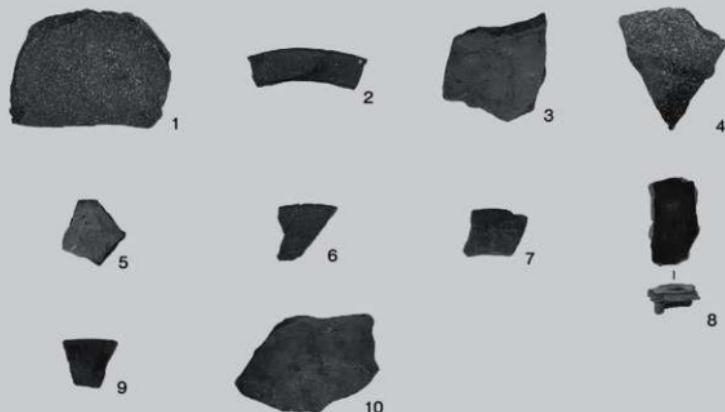
2号テストピット基本土層②（東から）



発掘作業風景



縄文時代遺構外出土遺物



奈良・平安時代遺構外出土遺物



1号溝出土遺物

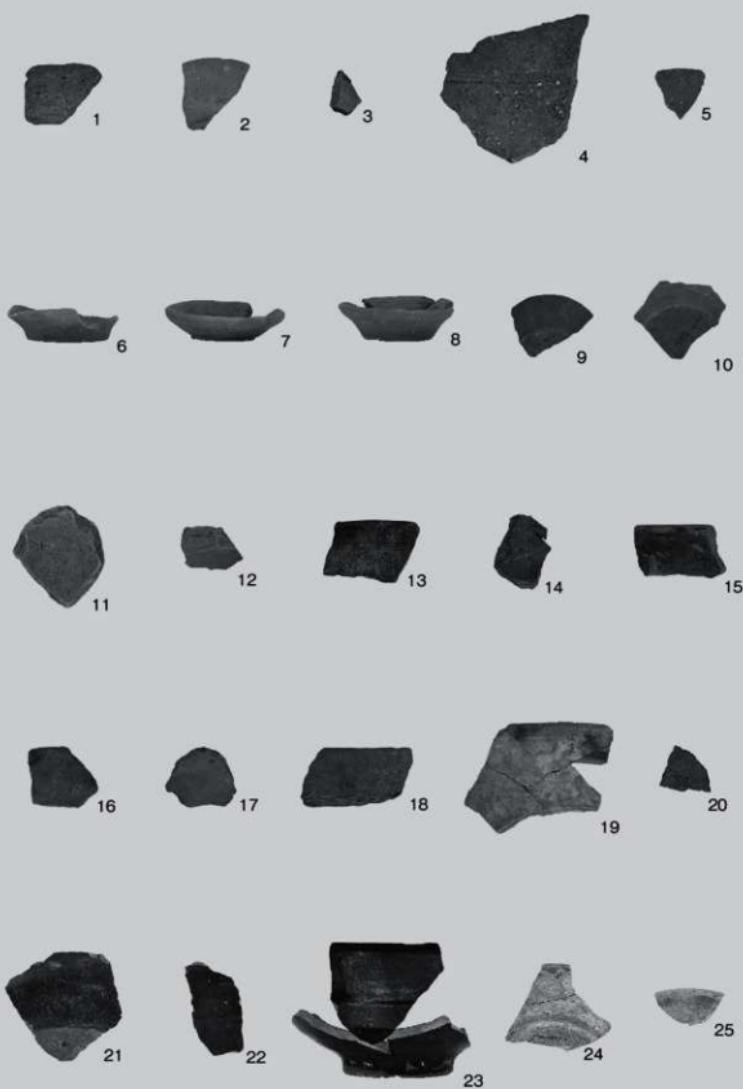


1号土坑出土遺物



6号土坑出土遺物

図版8



中世以降遺構外出土遺物

報告書抄録

茨城県石岡市

山崎塩海道遺跡

-市道 B6706 号線（美野里・八郷線）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査-

2014年3月20日発行

編集 株式会社東京航業研究所 ☎ 350-0855 埼玉県川越市伊佐沼28-1
TEL049-229-5771

発行 石岡市教育委員会 ☎ 315-0195 茨城県石岡市柿岡 5680-1
TEL0299-43-1111

印刷 関東図書株式会社 ☎ 336-0021 埼玉県さいたま市南区別所3-1-10
TEL048-862-2901